

様式第 6 号 ( 第 18 条関係 )

宮崎市地域コミュニティ活動交付金実績報告書

令和 5 年 5 月 22 日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市大字熊野 591
名 称	木花地域まちづくり推進委員会
代 表 者 の 氏 名	委員長 奥 正幸
電 話 番 号	0985-58-0044

令和 5 年 3 月 13 日付宮地第 3 7 2 号 2 でで交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金につきましては、宮崎市地域コミュニティ活動交付金に関する規則第 18 条第 1 項の規定により、関係書類を添えて実績報告書を提出します。

添付書類

- (イ) 事業実施報告書
- (ロ) 収支決算書
- (ハ) 事業別収支計算書
- (ニ) 繰越届出書
- (ホ) 備品管理台帳
- (ヘ) 意見書

木花地域自治区

木花地域まちづくり推進委員会

## 1 総括

地域の団体と連携をとり、住民の皆様の満足度の向上に努めてまいりました。  
今年度は、宮崎県教育庁スポーツ指導センターの協力により、広報誌内で、ひなた宮崎県総合運動公園内の避難施設を紹介しました。また、宮崎市木花・青島地区地域包括支援センター、宮崎県青島青少年自然の家、宮崎市木花児童センターとの協同体制を維持することができました。

## 2 収支決算

## (1) 収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	差額	備考
地域コミュニティ活動交付金	2,932,000	2,932,000		
繰越金	1,957,207	1,957,207		
負担金		39,000	39,000	トマト加工体験教室参加費
負担金		10,000	10,000	フラワーアレンジメント教室参加費 1,000円×10名
自己資金		28	28	銀行利息
その他				
合計(A)	4,889,207	4,938,235	49,028	

## (2) 支出の部

分野	事業名	実施年数	予算額	決算額	差額	執行率	備考
防	安全推進事業	9年目	792,000	618,292	173,708	78.1%	
防	防災資機材購入積立事業	1年目	500,000	500,000	0	100.0%	
福	福祉まちづくり事業	9年目	88,000	21,798	66,202	24.8%	
環	環境整備事業	10年目	286,000	160,331	125,669	56.1%	
環	地域活性化事業	11年目	225,000	176,756	48,244	78.6%	
伝	伝統文化継承事業	14年目	40,000	35,730	4,270	89.3%	
伝	伝統芸能伝承事業	8年目	82,000	50,000	32,000	61.0%	
伝	木花地区ガイドマップツアー事業	4年目	70,000	9,784	60,216	14.0%	
再	広報事業	8年目	540,000	355,183	184,817	65.8%	
健	木花地区まちづくり体育祭事業	14年目	846,000	4,043	841,957	0.5%	中止
再	このはな春祭り事業	1年目	514,000	2,916	511,084	0.6%	中止
他	地域まちづくり支援事業	6年目	906,207	778,681	127,526	85.9%	
合計(B)			4,889,207	2,713,514	2,175,693	55.5%	

次年度繰越金 2,224,721円(積立金500,000円除く)

(内訳 収入決算額 4,938,235円- 支出決算額 2,713,514円 )

### 3 実施報告

[ 安全推進部会 ]

事業名	安全推進事業	実施年数	9年目												
事業期間	開始： 2014年度	終了： 継続													
地域魅力発信プランとの関連	<p>安心をテーマに安全・安心を築くまちづくりを掲げて            子供がのびのび暮らす街：朝夕の見守り、挨拶・声掛け、青パト活動を通して、            健やかに育つ木花を目指す。            防災意識の高いまちづくり：防災への地域温度差を理解した上で、住民、学校、            各種団体を巻き込んで防災力の向上を目指します。            交通マナーのよいまち：歩行者、自転車、車を運転する人が、お互いに配慮し合っ            て事故の無い安全な木花を目指します。</p> <p>以上を意識し活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	<p>木花地域の防災力向上と自衛力向上をさせ、安全でいつまでも住み続けたい環境作りを            目指します。</p>														
事業内容・手段	<ol style="list-style-type: none"> <li>木花全地域の避難に関して               <ul style="list-style-type: none"> <li>初動避難時への援助の重要性を認識し、防災倉庫1基(加江田地区)と専門家から避難備品に関して学び、専門業者から推薦品を購入した。 地区の申し入れを受けながら、継続する。</li> <li>自主防災隊長会は、コロナ禍の状況を加味し未実施となった。</li> </ul> </li> <li>このはな防災塾に関して               <ul style="list-style-type: none"> <li>木花児童センター、学園木花台小、木花小から避難訓練の視察要請を受け、終了後に意見交換を行った。木花中では、マンホールトイレ組立訓練と防災備蓄品の確認作業を実施した。</li> </ul> </li> <li>少年防災マスター研修に関して               <ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座を学園木花台小4年生に2回実施、災害の種類・避難所での自助行為を学習させた。(防災クイズ、新聞紙スリッパ、ロープワーク、簡易タンカ作り、エコノミークラス症候群予防運動、避難備品の見学)</li> <li>青島青少年自然の家主催の『まなBOSAI』に6ブース出展し活動した。 (紙芝居、防災クイズ、新聞紙スリッパ、ロープワーク、ブルーシートテント)</li> <li>防災食調理実習を木花中1年生と行った。</li> </ul> </li> <li>防災標語募集に関して               <ul style="list-style-type: none"> <li>「災害・防災について考える」で募集し391通の応募。木花文化祭及び勢田木崎線の6か所の掲示板で優秀作品を発表した。</li> </ul> </li> <li>応急手当の指導活動(AEDの取り扱い、人形を使用しての人工呼吸法)               <ul style="list-style-type: none"> <li>AED・人形を購入し、講習会を6回実施しました。</li> </ul> </li> <li>変更事業の内容               <ul style="list-style-type: none"> <li>木花全地域の避難に関する事業で、防災倉庫1基と避難備品に関して、来期での実施の見通しとなり、『非常時用備品及び備蓄倉庫等整備基金事業』を設けて未執行残金を預託する。(500,000円)</li> </ul> </li> </ol>														
事業費	618,292円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年</th> <th>令和3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>1,780人</td> <td>1,100人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>94人</td> <td>52人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,874人</td> <td>1,152人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ(防災標語応募者391人含まず)</p>			年度	令和4年	令和3年	一般参加者	1,780人	1,100人	スタッフ	94人	52人	合計	1,874人	1,152人
年度	令和4年	令和3年													
一般参加者	1,780人	1,100人													
スタッフ	94人	52人													
合計	1,874人	1,152人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・防災・避難活動関係への比重が大きくなっているため、安全なまちづくり活動をして欲しい。</p>														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（1）木花全地区の避難に関して

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	A	防災倉庫・備品の必要性の聞き取り、確認の重要性を認識し改善しながら対応する。	広報	事業の周知	B	A	自治会長から各班長、住民へ確認しながらの活動となっている。
	住民の参加	B	A	対象者が自治会長、自主防災隊長を介して、住民の意見を反映させている。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・取組み・効率的な	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	A	行政を巻き込んだ方がより効果的であると感じた。	事業の効果	住民の満足度			B
	各種団体との連携	B	B	各種団体、特に消防団、社協等と連携を図っていききたい。特に危機管理課			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
		・部会内で、対応する規約の作成、認証などの作業が大変だったが、この手順なくしては進まない。							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（2）このはな防災塾に関して

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	B	塾員が木花全域の防災士から構成されており、地域内のニーズの拾いこみは日常的にしている。	広報	事業の周知	B	B	防災士の価値を認識してもらうためにも周知は重要と考えている。
	住民の参加	B	B	防災訓練や研修会を予定していたが、コロナ禍による自粛で実施しなかった。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・取組み・効率的な	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	安全推進部会と防災塾間で相互に連携することが重要で、今の状態は妥当といえる。	事業の効果	住民の満足度			B
	各種団体との連携	A	B	各学校と連携し、解決必要な問題を聞き取り、意見交換を重ねて行うように心掛けた。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちと、災害の種類を勉強し、それに適合した避難行動がある事を説明したことで、理解度、認知度が上がったことが確認できた。</li> <li>・中学校で行ったマンホールトイレの組立体験会は、生徒が予想以上に積極的に行動していた。講話実習以上の反響であったと感じました。</li> </ul>							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（3）少年防災マスター研修に関して

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	コロナ禍の為に学校の都合で活動は少なかったが、若年層育成のニーズについては認識を得ている。	広報	事業の周知	B	B	小、中学校から保護者への文書配布をもっと有効に利用し、防災関連の資料を定期的に行いたい。
	住民の参加	B	B	住民の直接参加は無いが家庭での防災意識の向上には役立つとの認識を得ている。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域の安全作りの為に、将来の地域の中心となる小、中学生の研修の意義は大きく妥当と言える。		住民の満足度			B
	各種団体との連携	A	B	今年度は、宮崎青島青少年自然の家主催の『まなbosai』に参加し700名の来場者に対して、6ブースを設けて実施した。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 簡易テント、ロープワーク、新聞紙でのスリッパ作成、ホットタオルの有効利用 防災クイズ、外所地震の紙芝居など、日頃から取り組んでいた事を、自然の家主催の「まなBOSAI」で活用できたこと、子供達に喜んでいただいたことが良かった。							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（4）防災標語募集に関して

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	3年ぶりの活動で3小学校と1中学校の生徒を対象に実施し、防災への啓発につながればと思い実施した。	広報	事業の周知	B	B	小、中学校から保護者への文書配布により活動が周知されている。
	住民の参加	B	B	間接的に、生徒の各家庭で保護者等の参加を期待しての活動であります。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	防災への意識付けへのきっかけ作りの提供であり妥当と思えます。		住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A	学校連携であり、教育委員会の承認を受けて実施していません。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 3年度ごとの活動で今年度より借り受けることができた勢田木崎線沿いの表示板を利用したの初事業で、美観的、内容的にも好評であったことは良かった。							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（5）応急手当の指導活動

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	-	救急救命（AED）実施の要望が多かった。	広報	事業の周知	B	-	学校内、自治会内への文書配布によって周知はされている。
	住民の参加	A	-	自治会等からの要望に基づき実施し、多くの参加を得て救命意識の向上に約立った。		事業の効果	課題解決への作用	B	-
効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	-	地域の安全な環境作りのため、学校、自治会での実施意義は大きく妥当といえる。			住民の満足度	A	-
	各種団体との連携	B	-	今後も、自治会・自主防災隊との連携は必要と思える。		事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急処置についての実施依頼が予想以上の多く、地域（自治会、公民館）活動の常態化の必要性を感じた</li> <li>・ 来年度は、活動頻度を上げたいので、AEDを1基追加します。</li> </ul>							
地域協議会からの意見への対応		<p>&lt;地域協議会からの意見（令和4年3月・事業計画）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数十年以内にやって来ると言われている南海トラフ巨大地震などに備えるために自治会など各種団体との連携強化を進め、各地域の実情に即した自主防災隊と課題を共有するなど、相互応援体制を地道に推進して欲しい。</li> </ul>						対応	未・済
		<p>&lt;意見への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災訓練については重要であると考えており、本年度はコロナ禍の影響で時期の制約を受けました。災害発生時の初期避難に関して地区の事情を反映した避難備品の整備を継続する方針で推進します。</li> </ul>							
		<p>&lt;地域協議会からの意見（令和4年3月・事業計画）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の特性に応じた防災訓練による総合力の結集で木花地域の防災力向上を目指して欲しい。また、少年防災マスター研修は、是非中学校を巻き込んでください。</li> </ul>						対応	未・済
		<p>&lt;意見への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校、中学校の避難訓練の視察と意見交換を3校で行った。中学校では、マンホールトイレの組立訓練、防災食調理実習を実施。また、3年ぶりに防災標語を募集し391作品の応募を受け優秀作品を地域に掲示、展示した。</li> </ul>							

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

事業名	防災資機材購入積立事業	実施年数	1年目	
事業期間	開始： 2022年度	終了：	継続予定	
地域魅力発信プランとの関連	安心をテーマに安全・安心を築くまちづくりを掲げて ・ 子供がのびのびと暮らせる町：朝夕の見守り、挨拶・声かけ、青パトなど子供が健やか育つ木花を目指す。 ・ 防災意識の高い町：防災への地域間温度差を理解した上で、住民、学校、各種団体を巻き込んだオール木花で防災力向上を目指す。 ・ 交通マナーのよいまち：歩行者、自転車、車がお互いに配慮し合って事故のない安全な木花を目指す。			
目的 (期待される効果)	木花地域の防災力向上と自衛力向上で、安全でいつまでも住み続けたい環境作りに寄与する。			
事業内容・手段	・ 年度内に実施できなかった為に余剰した予算金を、積立し翌年に実施する。			
事業費	500,000円			
対象者	木花地域住民			
創意工夫・改善点等	< 創意工夫点、昨年度から改善した点等 >			
	・ 計画実施をするために予算金を一時積立し翌年に運用できるように事業を追加申請した。			
	< 前年度C評価の評価項目への対応 対象項目( ) >			
地域協議会からの意見への対応	< 地域協議会からの意見(令和4年月・実施報告) >		対応	未・済
	< 意見への対応 >			
	< 地域協議会からの意見(令和4年月・実施報告) >			
	< 意見への対応 >		対応	未・済
	< 地域協議会からの意見(令和4年月・実施報告) >			
	< 意見への対応 >			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で作された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[ 福祉健康部会 ]

事業名	福祉まちづくり事業	実施年数	9年目												
事業期間	開始： 2014年度	終了	継続												
地域魅力発信プランとの関連	<p>福祉をテーマに、笑顔で優しさあふれるまちづくりを掲げて          子供を安心して育てられるまち・・・          若い世代が住み、子育てがしやすい環境は女性や高齢者にとっても優しいまちです。隣近所が仲良くし、地域みんなが子育てを助け合う人情味溢れる木花を目指します。          三世代にわたって住めるまち・・・          どの世代もそれぞれを思いやることのできる地域づくりをし、家族を大切にす木花を目指します。人テーマ          人材（財）がいきるまち・・・          得意分野を生かす、空いた時間を生かす、興味のある分野に取り組んでみる、など地域活動のスタイルは様々でO.K.です。それぞれの人材（財）がいきいきと活動する木花を目指します。          女性力を活かし輝くまち・・・          女性がさらによいいきいきと活動し、より輝いていく木花を目指します。</p> <p>以上を意識し活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	<p>1 すべての住民が、住み慣れた地域で共に支え合い健やかで安全に生活できる環境を作る。          2 映写会や講演会を通して、住民の健康に対する予防及び援助の知識を深める。          3 地域全体で認知症にやさしいまちづくりを目指す。</p>														
事業内容・手段	<p>1 生きがい支援活動 時期：12月12,13日          場所：鏡洲上区、下区自治会地区の屋外5カ所          内容：健幸体操、介護予防、フレイル予防の学習          連携：木花青島地域包括支援センター、福祉施設職員、キッチンカー</p> <p>2 認知症見守り声かけ模擬訓練          時期：10月8日          場所：下原自治公民館          内容：木花青島地域包括支援センターが認知症の講話          福祉施設職員が見守り声掛けの方法の実技</p> <p>3 「いきいき健康セミナー」          時期：11月19日          場所：学園木花台公民館          内容：理学療法士の先生から健康的な日常生活について講義</p> <p>4 ノルディックウォーキング          時期：9月23日          場所：木花神社周辺          内容：木花公園で歩き方の基礎を学び木花神社に向かい文化部のメンバーから周辺の名所・旧跡の案内を伺った。</p>														
事業費	21,798円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>90人</td> <td>39人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>29人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>119人</td> <td>67人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	90人	39人	スタッフ	29人	28人	合計	119人	67人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	90人	39人													
スタッフ	29人	28人													
合計	119人	67人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・年に何回か「健康や認知症」等について専門的な講義を聴くことは、頭の活性化になって良い。</p>														



自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 1. 生きがい支援活動

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	高齢者の引きこもり対策として計画し実施した。	広報	事業の周知	B	B	計画地区では、事前準備から周到であった。今後は木花全体に広げたい。
	住民の参加	A	A	民生児童委員、福祉協力員が事前に周知した為、参加者が多かった。		事業の効果	課題解決への作用	A	A
効果的・取組み・効率的な	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まち推が旗振り役を行い、6の関連団体を巻き込み参加できたことから妥当といえる。			住民の満足度	A	A
	各種団体との連携	A	A	民生児童委員、福祉協力員、自治会、地域包括、福祉施設、キッチンカーと連携した。		事業継続の必要性		(有) ・ 無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
		・12月に2日間にかけて鏡洲上下自治会合同で高齢者の方々に集ってもらい実施しました。民生委員・児童委員、福祉協力員が声掛けを行い、木花青島地域包括支援センターや福祉施設職員方から健幸体操、介護予防、フレイル予防を学んだ後、明石焼きを美味しく頂きました。今回から福祉施設職員も巻き込み活動主催側の広がりを実践しました。							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 2. 認知症見守り声かけ模擬訓練

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	自治会、民生児童委員の共催で行った。地域主体の実施であり地域ニーズを感じた。	広報	事業の周知	B	A	コロナ禍を配慮し、実施地区への周知に注力した。
	住民の参加	B	B	コロナ禍を配慮し参加人数を制限して実施した。		事業の効果	課題解決への作用	A	A
効果的・取組み・効率的な	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	自治会単位で実施しているが、関係者が参加している事から妥当である。			住民の満足度	A	A
	各種団体との連携	A	A	民生児童委員、自治会、地域包括、認知症地域支援推進員、福祉施設を連携した。		事業継続の必要性		(有) ・ 無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
		10月に下原公民館で24名の参加で実施。木花青島地域包括支援センター職員から認知症についての講義、福祉施設職員から見守り声掛けの方法を学びました。講義内容が専門的でとてもためになった。また、部会員の総合力で実施できていることを実感しました。							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 3. いきいき健康セミナー

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	日常生活で高齢者が生き生きと活動できる知識が付くように計画実施した。	広報	事業の周知	B	B	コロナ禍を配慮し、実施地区への周知に注力した。
	住民の参加	B	A	コロナ禍を配慮し参加人数を制限して実施した。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・組み・率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	自治会単位のサロン活動で実施しているが、関係者が参加している事から妥当である。		住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A	民生児童委員、自治会、地域包括、認知症地域支援推進員、福祉施設を連携した。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
		・11月に学園木花台公民館にて25名の参加で実施しました。理学療法士の先生から健康的な日常生活を過ごす為の講義を受けました。今後も、健康状態の維持、促進には、部会として積極的に取り組んでいきます。							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 4. ノルディックウォーキングの練習会

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A		住民の健康志向のニーズはある。	広報	事業の周知	B		コロナ禍を配慮し、部会員内で実施しました。
	住民の参加	B		福祉・健康部会員が参加しての実施。地域への広がりを行っています。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・組み・率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A		初の試みを部員として経験し、今後の参考に致します。		住民の満足度			A
	各種団体との連携	A		木花社協より道具を借り、福祉施設や文化部との連携で実施しました。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
		・9月に文化部とのコラボで木花神社周辺で名所旧跡案内を受けての開催を部会員対象に実施しました。歩いた後に約1時間立ったままの状態以案内員からの説明を受け、再び歩きましたが疲労がたまり予定の距離の半分程度で終了となり、実施工程表を見直し、楽にたのしく学べる用アレンジしてみます。							

地域協議会からの意見への対応	< 地域協議会からの意見（令和4年3月・事業計画） >	対応	未・済
	・ノルディックウォーキングは、コロナ禍での健康維持に効果があるので各種団体連携して広く住民参加を目指してください。		
	< 意見への対応 >	対応	未・済
	・健康年齢の維持、介護予防の観点でノルディックウォーキングを実施。参加者は、木花地域の名所・史跡巡りをするため、新しい発見をしました。体への負荷をどのように予想し実践できるか？今後の微調整の上継続して実施してまいります。		
< 地域協議会からの意見（令和4年3月・事業計画） >	対応	未・済	
・生きがい支援活動や認知症見守り声掛け模擬訓練は、小規模開催でも実施可能な事業ですので継続実施を目指してください。			
< 意見への対応 >			
	・生きがい支援活動は鏡洲で2年目の開催で5カ所で実施。また、認知症関係は自治公民館活動の一環で下原で開催しました。これと同様な展開を他の地区で開催できるよう検討し継続していきます。		

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[ 産業活性化部会 ]

事業名	環境整備事業	実施年数	10年目												
事業期間	開始： 2013年度	終了： 継続													
地域魅力発信プランとの関連	<p>環境をテーマに自然環境を守るまちづくりを掲げて  四季折々の自然を楽しむまち・・・  雄大な太平洋に面し、山々は常に緑をたたえ、3つの川は水辺の生き物の宝庫です。この自然の宝物を大切に、そしてより輝かせていく木花を目指します。  環境美化をすすめるまち・・・  ゴミのないまちは、皆がルールを守っている証です。防犯、防災、減災にもつながる環境美化に取り組む木花を目指します。</p> <p>以上を意識し活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	木花地域の自然や施設の整備を行うとともに、木花地域の環境について多くの人に知ってもらうことを目的とする事業を計画し実施する。														
事業内容・手段	<p>1 里山環境整備事業  場所 木花公園、好隣梅、等  内容 木花公園から権現山公園間の遊歩道の整備実施(11月)、好隣梅の草刈り実施(8月)、コスモスの種まき：鏡洲丸野地区実施(9月)、加江田内山地区(9月)</p> <p>2 知福川への鮎の稚魚の放流  (1)期日 令和3年5月22日(日)  (2)場所 知福川  (3)内容 知福川への鮎の稚魚放流</p>														
事業費	160,331円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>32人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>45人</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>77人</td> <td>75人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	32人	30人	スタッフ	45人	45人	合計	77人	75人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	32人	30人													
スタッフ	45人	45人													
合計	77人	75人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>自治会・公民館の要望を基に行っている事業であり、木花公園から権現山周辺整備、好隣梅の周辺整備、コスモスの種まき、知福川への鮎の稚魚放流に対してそれぞれの自治会・公民館と共に運営でき感謝された。  通常、鮎の稚魚放流は加江田保育園児と父母の参加を募って実施していますが、今年もコロナ禍の為に参加を見合わせましたが、地元自治会に声掛けし実施しました。自然の豊かさを体感するいい事業と思います。</p>														

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	地域の要望によって実施している。内山地区の種まき場所を外部からの見通しの利く所に変更しました。	広報	事業の周知	B	B	地域限定の色が濃い。周辺への周知はしていない。終了後に作業看板を設置し、SNSでの報告もし
	住民の参加	A	A	自治会が主導し部会がバックアップし実施している。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	継続出来ている事もからも妥当と思う。	事業の効果	住民の満足度			B
	各種団体との連携	A	A	市、知福川保全会や地元自治会、振興会と共働している。			事業継続の必要性		有 ・ 無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <p>部会のコミュニケーションを重要視し参加者の増加を図った。今後も継続し推進していきたい。また、事業実施場所に日時、部会、事業名称などを記載した看板を新設し、木花まちづくり推進委員会の活動の紹介を行った。また、SNSの利用の改善点です。（コスモスの種まき、好隣梅草刈り場所）</p>							

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	流れが緩い知福川で安全優先に活動している。自然保護の意義を意識して行っている。	広報	事業の周知	B	B	地域に限定している。SNSを活用して広げたい。広報誌で活動報告はしている。
	住民の参加	B	B	近所の加江田保育園児とその親を巻き込んで行っているが、SNSで発信ところ木花台からの参加者がいた。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	自然環境の保全を体感して重要さを感じていただきながら、健康維持への動機付けも期待できる。	事業の効果	住民の満足度			B
	各種団体との連携	A	A	加江田保育園や宮崎自然休養村のスタッフ、振興会との連携なくしてはできない。			事業継続の必要性		有 ・ 無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <p>自然相手の活動なので、天気の影響があっても開催する方針で行っている。今後は、知福川散策を含めコロナ禍が過ぎたのちには、幅広く活動できることを企画したい。</p>							

地域協議会からの意見への対応	< 地域協議会からの意見（令和4年3月・事業計画） >	対応	未・済
	・コスモスの種まきは、正連寺地区などで区域外の方にもPRするチャレンジはどうでしょうか。またアユの放流は検証結果や将来を住民にもPRするなど、広報にも工夫をお願いします。		
	< 意見への対応 >	対応	未・済
	・まち推としては、地域密着型事業を最優先に考えている。今後広げる予定でいます。広報は青島、本郷まちづくりを巻き込んだの発信を計画しています。（企画広報部会連携）		
< 地域協議会からの意見（令和4年3月・事業計画） >	対応	未・済	
・好隣梅の観光資源復活には、関係機関を巻き込んで進めて欲しい。セブン財団との協働事業に進展にも期待します。			
< 意見への対応 >	対応	未・済	
・現状22団体と連携し、今年度は南九大のツリークライムの協力で体験会を行います。今後は青島地区との連携も視野に入れて活動しています。			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

[ 産業活性化部会 ]

事業名	地域活性化事業	実施年数	11年目												
事業期間	開始： 2012年度	終了： 継続													
地域魅力発信プランとの関連	<p>環境をテーマに自然環境を守るまちづくりを掲げて  四季折々の自然を楽しむまち・・・  雄大な太平洋に面し、山々は常に緑をたたえ、3つの川は水辺の生き物の宝庫です。この自然の宝物を大切に、そしてより輝かせていく木花を目指します。</p> <p>地域資源を活かし、人が育ちつながまち・・・  地元の農産品を活用して、地元自慢ができ、女性力を活かして輝くまちづくりを目指します。</p> <p>地域を巻き込むイベントを行い、交流を活発にさせるよう目指します。  以上を意識し活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	木花の地域資源を活用して世代間、地域間の交流の機会を増やして、木花地域への興味及び関心を高め、地域の活性化を図る。														
事業内容・手段	<ol style="list-style-type: none"> <li>加江田溪谷ウォーキング  場所 丸野駐車場から加江田溪谷の往復（10月に実施10人）前年度は未実施</li> <li>農産物加工体験（6月に実施39人）  ・場所 清武農産物加工センター  ・内容 トマト加工し、ミートソース、ピューレ、ジャム作り）  3月実施のフラワーアレンジメント教室</li> <li>地域活性化プロジェクト（えれこっちゃん鏡洲100人、ウッドアート体験合計75人×4カ所、木花幼稚園が初開催）  今年度は、全て実施出来ました。  ・内容 地域内の活性化を図る為、関係団体と共同でイベントを開催する。</li> </ol>														
事業費	176,756円														
対象者	宮崎市及び近隣市町住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>224人</td> <td>230人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>50人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>274人</td> <td>300人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	224人	230人	スタッフ	50人	50人	合 計	274人	300人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	224人	230人													
スタッフ	50人	50人													
合 計	274人	300人													
住民の声（アンケートの結果等）	<p>コロナ禍であっても、開催が出来る範囲で行いました。トマト加工に関しては、地元農家の材料を使い安全・安心が確認できる事が素晴らしい。開催頻度を増やして欲しい。</p>														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）1. 加江田溪谷ウォーキング

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	-	このルートは個人では実施不可のために要望度は高い。	広報	事業の周知	B	-	実施するには、使えるネットワークを駆使する。今回は、チラシのみ。
	住民の参加	B	-	マニアクは部分がありトレッキング経験者が対象となるが、双石山人気と重なり期待度は高く感じます。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・組率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	-	まち推の人脈無くしては実現は難しい点より妥当。	事業の効果	住民の満足度			B
	各種団体との連携	B	-	このはなサポーターズネット、加江田溪谷の会、自然休養林保護管理協議会、登山協会と連携する。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <p>本来は、人気がある椿山山頂から加江田溪谷経由、丸野駐車場のルートでの実施である。このルートは、雨による崩落などでできなかったのが加江田溪谷散策とした。是非、本ルートで実行したい。（このはなバス起用の上）</p>							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 2 . 農産物加工体験

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	トマト加工施設の人件制限を受けていますので予約制で実施していますが、すぐに満員となっております。	広報	事業の周知	B	B	自治会回覧と掲示板を活用して実施している。電子媒体活用の検討をしている。
	住民の参加	A	A	2事業とも極めて積極的な参加状態です。数次での開催をするべきか？悩んでいます。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・組率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地場産業応援事業と地場産業への理解度向上が目標であり妥当です。	事業の効果	住民の満足度			B
	各種団体との連携	B	B	現在は、トマト加工農家や花作り農家と連携している。柔軟に考えている。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <p>地域・地産品を意識して地元自慢できるように、イベント数を増やしながらいちも貢献していきたい。事業告知チラシの表現方法をできるだけ面白くして興味を引くようにした。新規参加者が増えると更に</p>							



自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 3. 地域活性化プロジェクト

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前々年度				本年度	前々年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	学校と地域一体型イベントとなっていますので、重要と認識しています。	広報	事業の周知	B	B	広報誌、回覧板、掲示板の活用を主に行っている。
	住民の参加	A	B	ウッドアートは、児童対象であるが、えれこっチャド鏡洲は、住民参加のコーナーを設けて見学者と一体感を感じる行事です。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	B	地域の大きな松ぼっくりやどんぐりを活用しものつくりへ興味を引いてもらう効果を盛り込んだ行事で妥当		住民の満足度			B
	各種団体との連携	A	B	自治会、振興会、木花福祉会との連携のケースが多々ある			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <p>えれこっチャド鏡洲は、劇の主演に自治会長を抜擢し住民を驚かせた。ハプニング的演出は効果的であった。また、鏡洲小学校からは住民合同運動会の再開の申し入れがあり開催した。住民参加の領域を増やしてもっと喜んでもらいたいと考えている。</p>							
地域協議会からの意見への対応		<p>&lt;地域協議会からの意見（令和4年3月・事業計画）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農産物加工体験では木花イチゴの活用や市場に出回らないマンゴー等の規格外品の利用方法も検討して欲しい。</li> </ul>					対応	未・済	
		<p>&lt;意見への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>周辺の住民に相談しながら検討します。実施可能な方の参加をお待ちしています。</li> </ul>						未・済	
地域協議会からの意見への対応		<p>&lt;地域協議会からの意見（令和4年3月・事業計画）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>えれこっチャド鏡洲は地域活性化のモデル的な取組みなので木花の関係団体とのコラボを大いに期待しています。また、加江田溪谷ウォーキングは移動方法を確保して実施して欲しい。</li> </ul>					対応	未・済	
		<p>&lt;意見への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>えれこっチャド鏡洲は住民の積極的関与によってなせる事業であります。横展開への期待をほぼ無理です。加江田溪谷事業は現地集合、解散で当面実施します。（椿山へはバス移動です）</li> </ul>						未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[文化部会]

事業名	伝統文化継承事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始： 2009年度	終了： 継続													
地域魅力発信プランとの関連	<p>文化をテーマに歴史を守り文化を育むまちづくりを掲げて地域の伝統文化を守り育てるまち・・・</p> <p>木の花さくや姫など、木花に伝わる神話や伝説、童話を子供達へ伝えることは、郷土に誇りを持つことや、郷土愛を育むことに繋がります。地域、学校が連携して伝統文化の担い手を育てることで郷土の歴史や文化を支えていく木花を目指します。</p> <p>木花の宝を発信するまち・・・</p> <p>木花には地域内外の人にまだ知られていない宝があります。それらの情報を様々な媒体で発信することは、宝の保全にも有効です。木花の宝を多くの人に知ってもらう活動に取り組み、発信力のある木花を目指します。</p> <p>以上を意識して活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木花の偉人、名所、史跡、文化財等に関する標柱・案内板等の維持管理</li> <li>・木花地域の文化遺産を次世代へ継承する。</li> </ul>														
事業内容・手段	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 名所・史跡の標柱・案内板の維持・管理活動             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 期間：令和4年 4月～令和5年3月</li> <li>(2) 場所：木花各地区</li> <li>(3) 点検・清掃を行い、状態に応じては修理・撤去等の対応を行った。</li> </ol> </li> <li>2. 地域小学校からの「昔のあそび等」の指導要請に対応して、子供達に身近な材料を使ったものづくりと遊びの場と体験の機会を提供した。</li> </ol>														
事業費	35,730円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>29人</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>15人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>44人</td> <td>62人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	29人	40人	スタッフ	15人	22人	合 計	44人	62人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	29人	40人													
スタッフ	15人	22人													
合 計	44人	62人													

住民の声（アンケートの結果等）	<p>1. 権現山公園および公園から俯瞰できる正連寺平野についての案内板は、この地を実際にガイドする、される、双方にとってガイドし易い案内ツールとしても有効に感じる。</p> <p>2. 去年に引き続き、鏡洲小学校から全校児童を対象とした「手作りおもちゃ体験学習」への指導要請を受け実施（12月からのコロナ感染急拡大により、文化部会員の直接の指導は中止しましたが、担当の先生との打ち合わせと事前指導を行うことにより体験学習は実施しました。）</p> <p>学校からは次のようなコメントを頂きました 『今までたくさんのおもちゃを買ってもらったであろう子供達。それでもやっぱり自分で手作りしたおもちゃは思い入れが違います。手造りだからこそ知れるおもちゃの構造や意味。サイコロやコマをおもちゃとして買う機会はあまりないかもしれないけれど、手作りだから夢中になる面白さがあるんですね』</p>
-----------------	--

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	・案内板は地域住民代表の意見を反映するような内容とした。	広報	事業の周知	B	B	広報誌の掲載。回覧板の運用。	
	住民の参加	A	A	・案内板の内容には説明文のみならず、案内対象のレイアウト上の位置や写真表示・カラー化等による見える化に努めた。			事業の効果	課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域住民の要望に対応できた。		住民の満足度			A	A
	各種団体との連携	A	A	自治会、地域住民と連携し推進している。			事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>								
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内板は説明文だけではなく、案内対象の公園レイアウト上での位置表示や絵図・写真表示をできるだけカラー化するなどの工夫により「見える化」に努めるようにしてきました。</li> <li>・「標柱・案内板」の点検・清掃等管理の主担当者を決めて責任ある活動が実施できました。</li> <li>・コロナ禍中での鏡洲小での「昔のおもちゃ作り 自分で手作りしたおもちゃで遊ぶ体験学習」の支援は担当の先生を通じての間接支援活動となったが、鏡洲小のHome Page「鏡洲っ子の日常」Webにもあるように非常に好評でした。</li> </ul>								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見書（令和4年3月・事業計画）>				対応	未・済			
		・小学生を対象とした「昔のあそび」伝承は継続を大いに期待しています。								
		<意見への対応>								
		・昔のおもちゃ作り 身近な材料を活かした手作りおもちゃと遊びの体験学習の支援活動を行った。								
		<地域協議会からの意見書（令和4年3月・事業計画）>				対応	未・済			
		・名所旧跡の標柱や案内板の維持管理は苦勞が多いでしょうが、地道な継続作業をお願いします。								
<意見への対応>										
・維持管理活動を着実に実践しました。										

---

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[文化部会]

事業名	伝統芸能伝承事業	実施年数	8年目																									
事業期間	開始： 2015年度	終了： 継続																										
地域魅力発信プランとの関連	<p>文化をテーマに歴史を守り文化を育むまちづくりを掲げて 地域の伝統文化を守り育てるまち・・・ 木の花さくや姫など、木花に伝わる神話や伝説、童話を子供達へ伝えることは、郷土に誇りを持つことや、郷土愛を育むことに繋がります。地域、学校が連携して伝統文化の担い手を育てることで郷土の歴史や文化を支えていく木花を目指します。</p> <p>木花の宝を発信するまち・・・ 木花には地域内外の人にまだ知られていない宝があります。それらの情報を様々な媒体で発信することは、宝の保全にも有効です。木花の宝を多くの人に知ってもらう活動に取り組み、発信力のある木花を目指します。</p> <p>以上を意識して活動を行っています。</p>																											
目的 (期待される効果)	伝統芸能である「木花相撲踊り」及び「下原の雨太鼓」の保存及び後継者育成の取組推進																											
事業内容・手段	<p>1. 「木花相撲踊り」の伝承(披露)、後継者育成に取り組んだ。</p> <p>(1) 期間 令和5年4月～令和5年3月 (2) 場所 木花6番講公民館、木花小学校、学園木花台小学校、清武文化会館、木花中学校、息軒会館、好隣梅</p> <p>(3) 内容 6月16日木花小で「相撲踊り同好会」の発足式開催(相撲踊り伝承の一環)以後、7月より木花小相撲踊り同好会において、継続的に月次・週次の指導会を行い、熱心に生徒たちのスキルアップに努めた。 6月9日学園木花台小においても3年生を対象に相撲踊り指導会を行い、10月の運動会に向け4回にわたり生徒たちに精力的に指導を行なった。運動会本番では、相撲踊り保存会による生演奏・生歌声の中で、子供たちは練習の成果を存分に発揮していた。</p> <p>2. 「下原雨太鼓」後継者探しの一環として、「下原雨太鼓練習会」の開催を計画し、広く木花地区住民に広報し参加を募り、令和5年1月までに練習会を8回行った。木花相撲踊り保存会の強力メンバーが練習会に参加し、練習のみならず、雨太鼓の楽譜の修正にも積極的に参加・協力してもらった。</p>																											
事業費	50,000円																											
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年 度</th> <th colspan="2">令和4年度</th> <th colspan="2">令和3年度</th> </tr> <tr> <th>相撲</th> <th>雨太鼓</th> <th>相撲</th> <th>雨太鼓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>852人</td> <td>7人</td> <td>400人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>198人</td> <td>39人</td> <td>88人</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,050人</td> <td>46人</td> <td>488人</td> <td>50人</td> </tr> </tbody> </table>				年 度	令和4年度		令和3年度		相撲	雨太鼓	相撲	雨太鼓	一般参加者	852人	7人	400人	5人	スタッフ	198人	39人	88人	45人	合 計	1,050人	46人	488人	50人
年 度	令和4年度		令和3年度																									
	相撲	雨太鼓	相撲	雨太鼓																								
一般参加者	852人	7人	400人	5人																								
スタッフ	198人	39人	88人	45人																								
合 計	1,050人	46人	488人	50人																								
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・木花小学校での定期的な相撲踊り同好会指導はコロナ禍の中、好評であり、充実した指導ができた。学園木花台小学校においても、秋の運動会での子供たちによる相撲踊りの披露を目指して、5回の集中指導を行い好評であった。</p>																											

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	B	相撲踊りの認知度高く、木花小で同好会も発足した。学園木花台小でも、運動会での生徒による相撲踊り披露のための指導要請があり、積極的に対応した。	広報	事業の周知	B	B	自治会のネットワークを利用し参加者募集を定期的に行っている。
	住民の参加	A	B	コロナ禍で相撲踊り披露の機会が激減する中、木花小同好会および学園木花台小で充実した指導ができた。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	木花小学校では同好会活動として、学園木花台小学校では運動会でのお披露目を目的として長期に渡る指導を行い、後継者育成にも頑張っている。		住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A	自治会、体育会、公民館等とイベント毎に協力している。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相撲踊りは木花小学校での定期的な月次・週次の指導会が毎年行われるようになった。さらに、学園木花台小学校でも秋の運動会での生徒たちによる相撲踊りの披露目指して精力的な指導会（相撲踊りスタッフ多数参加）が行われ、非常に好評であった。</li> <li>下原雨太鼓については、保存会会員増が課題であったが、逆に期待の若い会員が仕事の都合により練習に参加できず、実質の保存会会員減員となった。したがって、現在雨太鼓練習会では会員の他に一般参加者、部会スタッフを含め平均4～5名の演者による活動となっている。しかしながら、相撲踊りメンバーの練習参加もあり、練習会では和気あいあいとした雰囲気の中で、太鼓と鉦を持ち楽しく演じることができるようになってきた。まずは、練習参加者が安定的にスキル向上に励み、披露できるまでのスキルを身に付けることを最重要課題として取り組む。</li> </ul>							
		地域協議会からの意見への対応		<p>&lt;地域協議会からの意見書（令和4年3月・事業計画）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木花相撲踊りの後継者育成の一環として、是非とも中学校への働きかけを継続して欲しい。</li> </ul>					
<p>&lt;意見への対応&gt;</p> <p>従来、中学校の文化祭で演奏・踊りを実演するなどして、中学校への働きかけをしましたが、むしろ、本人が小学校時代に同好会で相撲踊りを習った子どもが、自主的に保存会に入り、昨年11月の“みやざき民族芸能祭”では、相撲踊りのメンバーの一員として、その若い踊りの姿を披露しました。これは、踊り継承の素晴らしい成果の一つではないでしょうか。</p>									
<p>&lt;地域協議会からの意見書（令和4年3月・事業計画）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下原雨太鼓は催事での披露を期待しています。</li> </ul>						対応	未・済		
<p>&lt;意見への対応&gt;</p> <p>現時点保存会会員の都合により実働会員数が減少。現在文化部会員が参加して技能継承活動を行っている。この現実下では、まずは木花地区において会員を確保した上で、スキルアップに務め、披露できるレベルとなった時点で催事に参加したい。</p>									

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[ 文化部会 ]

事業名	木花地区ガイドマップツアー事業	実施年数	4年目												
事業期間	開始： 2019年度	終了： <u>継続</u>													
地域魅力発信プランとの関連	<p>文化をテーマに歴史を守り文化を育むまちづくりを掲げて 地域の伝統文化を守り育てるまち・・・ 木の花さくや姫など、木花に伝わる神話や伝説、童話を子供達へ伝えることは、郷土に誇りを持つことや、郷土愛を育むことに繋がります。地域、学校が連携して伝統文化の担い手を育てることで郷土の歴史や文化を支えていく木花を目指します。 木花の宝を発信するまち・・・ 木花には地域内外の人にまだ知られていない宝があります。それらの情報を様々な媒体で発信することは、宝の保全にも有効です。木花の宝を多くの人に知ってもらう活動に取り組み、発信力のある木花を目指します。</p> <p>以上を意識して活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	<p>既に発行済みの、木花の先人や名所・旧跡・伝統芸能等の説明・案内書となる“木花「まち歩きガイド」”を利用し、「史跡めぐりツアー」を企画、あるいは地域のニーズに応じて、案内ガイドを積極的に行い、広く木花の文化遺産を知ってもらう。</p>														
事業内容・手段	<p>1. ガイドマップツアー実施のために、文化部会員のガイド案内の訓練・養成を行った。案内者の訓練・養成のための推奨ガイド案内コースを、見処・案内処が七つもある“権現山公園コース”とし、原則ガイド案内者が一人で訓練コースをガイド案内する訓練を6～7月にかけて都合4回行った。</p> <p>上記の訓練・案内時期に、学園木花台小学校より3年生の総合学習の一環として、木花神社の案内ガイドの依頼があった。待ってましたとばかりに、この機を逃さず案内範囲を広げて木花神社を含む権現山公園とし、部会員の訓練の成果を試すべく対応することにして、約55名の小学生と引率の先生の案内ガイドを行った。</p> <p>また、項に付加して、権現山公園以外の木花の名所・旧跡についても、講話の依頼があったので部会員により講話を行った。</p> <p>2. 福祉健康部会と文化部会の合同企画により、ウォーキングの目的地を権現山公園に設定し、文化部会員による案内ガイドを実施する合同ノルディックウォーキングを計画し実施した。後に、参加者に案内ガイドに関するアンケート調査を実施し、着目すべきコメントについては今後の活動に生かすことにした。</p> <p>3. きばな「まち歩きガイド」のさらなる周知を図るための活動促進 インターネット環境を利用して「まち歩きガイド」を閲覧できるようにコンテンツの内容および閲覧方法を継続検討中。</p> <p>自治会集会所や公民館等を利用した広報活動はコロナ禍を考慮し未実施。</p>														
事業費	9,784円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<p>1月末実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>206人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>121人</td> <td>91人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>327人</td> <td>91人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	206人	0人	スタッフ	121人	91人	合 計	327人	91人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	206人	0人													
スタッフ	121人	91人													
合 計	327人	91人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・<u>学園木花台小学生の声</u>： 木花の文化や歴史を詳しく教えてもらいとても役に立った 木花神社ではとても説明が分かり易かった 外所大地震のことがとても心に残った</p> <p>・<u>合同ツアー参加者の声</u>： 知らないことが多くとても勉強になった 分かり易くて良かった一面、詳しくすぎて分かり難い面もあった ウォーキングを主とするとガイドの説明は長い、見学を主とするとガイドの説明はとても良い</p>														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	B	名所・旧跡については、まだまだ隠れたポイントも多々あり、今後の顕在化につなげたい。	広報	事業の周知	B	B	木花「まち歩きガイド」をもっと衆知・利用する環境の必要性あり。
	住民の参加	B	B	探求上、記録がなく口述伝承事案もある。必然的に住民に聞き取り場への参加を求めるが生じる。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域の宝的な要素を充分含んでいる点で妥当性ありと思われる。		住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A	自治会・文化懇談会等との連携を行っている。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良かった点としては、一般対象よりもグッと年齢の低い小学3年生をガイド案内する機会が、思いも掛けず飛び込んで来たことに関しては、説明する言葉の選択、分かり易さ、ベースとなる語彙力等々考慮すべき点が多々あり、ある意味良い機会であった事。</li> <li>・改善点としては、ガイド案内の目的が複数あるような場合には、イベント開催の目的を十分事前検討すべきであった事。</li> </ul>							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見書（令和4年3月・事業計画）>						対応	未・済
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まち歩きガイド」を利用したお宝発見ツアーの実施と共に各部会との合同ツアーに期待しています。</li> </ul>							
		<意見への対応>							
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まち歩きガイド」を利用して、小学3年生対象の権現山公園の案内ガイドを実施した。また健康福祉部会と文化部会で、目的地を権現山公園に設定し、合同ノルディックウォーキング会を実施した。</li> </ul>							
		<地域協議会からの意見書（令和4年3月・事業計画）>						対応	未・済
		<意見への対応>							

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。



[ 企画・広報部会 ]

事業名	広報事業	実施年数	8年目												
事業期間	開始： 2015年度	終了： 継続													
地域魅力発信 プランとの関連	<p>ひとをテーマに人が育ちつながるまちづくりを掲げて 人材（財）が活きるまち・・・ 得意分野を生かす、空いた時間を生かす、興味のある分野に取り組んでみる、など地域活動のスタイルは様々でOKです。それぞれの人材（財）がいきいきと活動する木花を目指します。 地域の催しを応援するまち・・・ 「木花地区体育祭」や「木の花夏の夜祭り」などの催しを地域全体で応援することは、人材を育成することにもつながります。子供から高齢者まで誰もが楽しめる地域の催しを応援してゆく木花を目指します。 情報を共有するまち・・・ 木花地区自治会連合会、木花地域まちづくり推進委員会、その他各種地縁団体が情報を共有し協力することで、つながっていく木花をめざします。</p> <p>以上を意識し活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	<p>1 まちづくり推進委員会各部の活動のほか、地域協議会や各種団体、学校などの行事や活動、各種イベントなどをまとめた広報誌の発行。</p> <p>2 時代のニーズに合わせ、ホームページの掲載からSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）への投稿に移行して、各部の活動報告及びイベント等を広報する。</p>														
事業内容・手段	<p>1 広報誌の発行・・・ (1) 発行時期：年2回。4月、10月 (2) 内容 ・年間を通して開催される各種行事、イベントを調査しその活動内容や活動実績をまとめた広報誌の発行。 ・地域協議会、地区社協との合同広報誌の発行。 掲示板の新設と木の花サポーターズネットの掲示板を運用した。</p> <p>2 SNSへの投稿と管理 内容 LINEを使用し木花メルマガを地域センターと共同で立ち上げた。令和3年度中に運用開始できた。宮大生たちもカバーし、公式アカウント登録者が600人を超えた。</p>														
事業費	355,183円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>(登録者) 738人</td> <td>(登録者) 627人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>50人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>788人</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	(登録者) 738人	(登録者) 627人	スタッフ	50人	20人	合 計	788人	20人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	(登録者) 738人	(登録者) 627人													
スタッフ	50人	20人													
合 計	788人	20人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・広報誌「このはな13号」は、SNSの登録呼掛け、木花・青島地区地域包括支援センター、14号では、宮崎県総合運動公園の避難施設、県青島青少年自然の家、市木花児童センターと連携し記事を載せました。情報が多くなった。活動内容が判りやすい。活動に興味を沸いた。との声を頂いた。</p>														

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	各団体への聞き取りを先行してから掲載しているの で、把握している。	広報	事業の周知	A	B	広報誌とSNSの 関わり合いの機能 させ実行してい る。	
	住民の参加	B	B	参加を促すよう募 集事項を含んで進 めている。			事業の 効果	課題解決への作用	B	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	実体を住民に知らせ、興味を持って いただく事業で す。継続させて効 果が発揮され妥当 です。		住民の満足度			B	B
	各種団体との連携	B	B	地域全体の融合、付 近の地区の巻き込 みを行い、注目度 を上げたい。宮大 生からイベント紹 介に利用したい依 頼がある。						
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌では、各団体との連携、SNSでは、登録者の増やす事とエリアを超えての情報発信側を増やす事に注力を注いでいる。(内海、青島、本郷エリア等)</li> </ul>								
<p>&lt;地域協議会からの意見(令和4年3月・事業計画)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木花メルマガの情報発信と住民への浸透の為に、もう少し分かり易い工夫を期待しています。</li> </ul>					対応	未・済				
<p>&lt;意見への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部会で情報伝達の伝え方の意見交換は頻繁に行い、文章のヘッドに、する事、やる事と掲示し、内容が続く、最後に主催連絡先にする事で読む気になるようだ。検討は継続させる。また、キャンペーンも継続させる。</li> </ul>										
<p>&lt;地域協議会からの意見(令和4年3月・事業計画)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌「このはな」の更なる充実を目指して下さい。</li> </ul>					対応	未・済				
<p>&lt;意見への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体の記事の掲載は効果があった。拡大させるを継続していきます。</li> </ul>										

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	このはな春祭り事業	実施年数	1年目												
事業期間	開始： 2021年度	終了： 継続													
地域魅力発信プランとの関連	<p>福祉をテーマに、笑顔で優しさあふれるまちづくりを掲げます。  子供を安心して育てられるまち・・・  若い世代が住み、子育てがしやすい環境は女性や高齢者にとっても優しいまちです。隣近所が仲良くし、地域みんなで子育てを助け合う人情味溢れる木花を目指します。  三世代にわたって住めるまち・・・  どの世代もそれぞれを思いやることのできる地域づくりをし、家族を大切にす木花を目指します。人テーマ  人材（財）がいきるまち・・・  得意分野を生かす、空いた時間を生かす、興味のある分野に取り組んでみる、など地域活動のスタイルは様々でO.K.です。それぞれの人材（財）がいきいきと活動する木花を目指します。  女性力を活かし輝くまち・・・  女性がさらにいきいきと活動し、より輝いていく木花を目指します。</p> <p>以上を意識し活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 まちづくり推進委員会5部会及び地域の各団体、組織と連携しながら地域住民のふれあいの場をつくる。</li> <li>2 木花地域まちづくり推進委員会各部会内容の提示などにより、活動状況や内容を理解してもらい、参加を促す場をつくる。</li> <li>3 地域住民の絆を築き、安心して住める明るく楽しい健康的なまちづくりを目指す。</li> </ol>														
事業内容・手段	<p>木の花春祭り事業は、本年度は、コロナ禍の為に実行委員会で討議し企画しませんでした。  令和4年度は、企画・広報部会扱いで実行委員会制で行います。</p>														
事業費	2,916円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者			スタッフ			合計	0人	0人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者															
スタッフ															
合計	0人	0人													
住民の声(アンケートの結果等)															

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民づくりのま	地域ニーズの把握				広報	事業の周知				
	住民の参加					事業の効果	課題解決への作用			
効果的・組 み・効 率的な取 組	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性						住民の満足度			
	各種団体との連携				事業継続の必要性			○ 有 ・ 無		
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和4年3月・事業計画）>					対応	○ 未 ・ 済		
		・新しく各種団体も参加しての共催事業として実行委員会形式で計画されているようですので地域住民の親睦の場として大いに期待しています。								
		<意見への対応>					対応	未 ・ 済		
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・）>								
<意見への対応>										
<p>「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。</p>										

[ 企画・広報部会 ]

事業名	木花地区まちづくり体育祭事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始： 2009年度	終了： 継続													
地域魅力発信プランとの関連	<p>学びをテーマに生涯にわたって学ぶまちづくりを掲げて スポーツに親しむまち・・・ スポーツに親しみ、健康、体力づくりをしていく元気な木花を目指します。</p> <p>ひとをテーマに人が育ちつながるまちづくりを掲げて 女子力を活かし輝くまち・・・ 女性がさらに生き生きと活動し、より輝いていく木花を目指します。</p> <p>以上を意識し活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	まちづくり体育祭を通して木花地域住民の交流と親睦を図ると共に相互理解と協力・協調の意識を育て、明るく活力のある地域づくりに寄与する。														
事業内容・手段	<b>今年度は実行委員会を立ち上げましたが、コロナ禍の為に中止致しました。</b>														
事業費	4,043円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者			スタッフ			合計	0人	0人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者															
スタッフ															
合計	0人	0人													
住民の声(アンケートの結果等)															

自己評価(評価：A 良い B 普通 C 要改善)

評価項目	評価		特記事項	評価項目	評価		特記事項
	本年度	前年度			本年度	前年度	
住民主体のまちづくりの推進				広報			
				事業の効果			
効果的な取り組み							
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等>		事業継続の必要性		有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		

地域協議会からの意見への対応	< 地域協議会からの意見（令和4年3月・実施報告）>	対応	未・済
	・コロナ禍で住民の交流の場が減ってしまったので、安心安全な親睦が図れる体育祭を期待しています。		
	< 意見への対応 >		
地域協議会からの意見への対応	< 地域協議会からの意見（令和年月・事業計画）>	対応	未・済
	< 意見への対応 >		

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[ 事務局 ]

事業名	地域まちづくり支援事業	実施年数	6年目												
事業期間	開始： 2017年度	終了：	継続												
地域魅力発信プランとの関連	<p>ひとをテーマに人が育ちつながるまちづくりを掲げて          人材（財）が活きるまち・・・          得意分野を生かす、空いた時間を生かす、興味のある分野に取り組んでみる、など地域活動のスタイルは様々でOKです。それぞれの人材（財）がいきいきと活動する木花を目指します。          地域の催しを応援するまち・・・          「木花地区体育祭」や「木の花夏の夜祭り」などの催しを地域全体で応援することは、人材を育成することにもつながります。子供から高齢者まで誰もが楽しめる地域の催しを応援していく木花を目指します          情報を共有するまち・・・          木花地区自治会連合会、木花地域まちづくり推進委員会、その他各種地縁団体が情報を共有し協力することで、つながっていく木花を目指します。</p> <p>以上を意識し活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	<p>まちづくり推進委員会、全ての部会及び事務局運営の効率化を推進するとともに、まちづくり推進委員会の専用車の適切な活用を図る。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) まちづくり推進委員会各部会の円滑な運営を行うための支援          (2) まちづくり推進委員会の運営に必要な物品の確保と充実化          (3) 青色ランプ防犯パトロール隊に関する支援          (4) まちづくり専用車の積極的活用          (5) 借用施設の適切な維持管理          (6) まちづくり推進委員会の事務局運営</p>														
事業費	778,681円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和4年度	令和3年	一般参加者			スタッフ			合 計	0人	0人
年 度	令和4年度	令和3年													
一般参加者															
スタッフ															
合 計	0人	0人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・全日本サーフィン大会を行われ、県外の来訪者も多い、こどもの国でのイベント、宮崎県青島青少年自然の家のイベントなど、コロナ禍でも頑張っている。終息後は、外部の呼び込みを積極的に実施して欲しい。</p>														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（1）事務局の運営に関して

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	地域の団体とまちづくりの部会に積極的に関わり問題把握に努めた	広報	事業の周知	B	B	各部会の事業以外に地域の活動をSNS・チラシ・回覧・ポスター掲示で周知し、住民へ参加を促した。
	住民の参加	A	B	事務局から、コロナ禍の影響が少ない、小さい事業展開を紹介し活動低下にならないよう応援したい。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・組率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	活動の重要性を期待し、部会間の連携も行い、相乗効果を生み出したい。		住民の満足度			B
	各種団体との連携	A	A	県運動公園の避難施設の紹介や地域団体の紹介を行い連携強化を実行した。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
		青島地域まちづくり推進委員会、本郷まちづくり推進委員会と事業などの情報交換を積極的に行い、SNSの情報発信に巻き込む方向で動いています。また、宮崎県青島青少年自然の家の防災イベントへの参加要請を受け実現した。日頃からの交流は重要であると実感した。							



自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） （2）青色パトロールの運営に関して

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民づくりのまち	地域ニーズの把握	A	A	各種団体からの声を拾い上げる仕組みがある。小中学校との連携も取れている。 各種団体に募集を依頼することが重要。	広報	事業の周知	B	B	青色パトロール隊員の募集を行いながら、活動内容を可視化し掲示したい。	
	住民の参加	B	B				A	B		存在を認知していただきながら活動を推進させる。
効果的・効率的な取組	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	安全・安心して住み続ける環境作りに直結している点で妥当と言える。 青色パトロールの利用の提案をすすめていきたい。	事業の効果	住民の満足度	A	B	満足度測定評価は難しい。、マイナス評価がない点で良しとしたい。	
	各種団体との連携	B	B				事業継続の必要性			有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>								
		小中学校の下校時間に重なる青パト隊には、出勤時刻の調整をお願いした。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和4年3月・事業計画）>				対応	未・済	・事務局のポジティブな活動を応援しています。		
		<意見への対応>								
		・部会単独開催への拘りより、連携開催を強みと考え対応していきたいと思います。								
						対応	未・済			
		<意見への対応>								

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

3 実施報告

[ 安全推進部会 ]

事業名	安全推進事業	実施年数	6年目
事業期間	開始： 2014年度	終了：	
地域魅力発信プランとの関連	<p>安心をテーマに安全・安心を築くまちづくりを掲げて            子供がのびのび暮らす街・・・            子供を守る「青パト」・見守り朝夕の「あいさつ声かけ」など、地域全体でコミュニケーションを取り合って子供が健康に育っていく木花を目指します。            防災意識の高いまち・・・            防災の地域温度差を乗り越えて、住民、学校、福祉施設、企業を含めた全員参加で防災について考えて行く木花を目指します。            交通マナーのよいまち・・・            歩行者も、自転車に乗る人も、車を運転する人も、お互いに配慮し合っ            て事故や違反のない安全な木花を目指します。</p> <p>以上を意識し活動を行っています。</p>		
目的 (期待される効果)	<p>木花地域の安全で住みよい環境づくりに寄与する。            自主防災組織の充実、このはな防災塾運営、木花地域少年防災マスター養成を実施し、津波避難誘導標識の設置。            ふれあい祭りに参加する。</p>		
事業内容・手段	<p>1 自主防災組織の充実 17,000円            (1) 期間 平成31年4月～令和2年3月            (2) 内容 木花地域の各自主防災組織(隊)の連携を図るため、研修を実施した。</p> <p>2 このはな防災塾 55,000円            (1) 期間 平成31年4月～令和2年3月            (2) 内容 期間内に研修・訓練を実施し、機関紙は事情により発行出来なかった。</p> <p>3 木花地域少年防災マスター養成研修 85,000円            (1) 期間 平成31年4月～令和2年3月            (2) 内容 期間内に3つの小学校高学年を対象に20名にダム機能の研修を実施した。</p> <p>4 避難誘導標識の設置 14,000円            (1) 期間 平成31年4月～令和元年3月            (2) 内容 木花地域の各地区には現在41カ所に標識が設置されているが追加または補修を            要望に応じて実施した。</p> <p>5 ふれあい祭りに参加 20,000円            (1) 期間 令和元年5月19日(日)            (2) 内容 福祉・健康部会が5月に実施するふれあいまつりに木花まちづくりの全5部会が            活動状況等を報告する。当部会はかまどベンチでぜんざいを作りふる            まった。            また、消防署の協力を得て、起震車での模擬地震体験・煙体験コーナー            を設け            たが、当日雨天のため中止しました。</p> <p>6 防災標語の募集 15,000円</p>		
事業費	206,000円		
対象者	木花地域住民		

参加者数 (内訳)	年 度	令和元年度	平成30年度
	一般参加者	810人	610人
	スタッフ	190人	150人
	合 計	1000人	760人
事業内容に応じて男女別や年代別データ			
住民の声(アンケートの結果等)	ニーズを拾いながら活動している。参加者の増加や、学校側の理解度、感謝状、活動写真を頂ける環境などから推測して貢献できているように思える。活動への参加者を増やす努力も継続する必要も感じている。		

自己評価(評価:A 良い B 普通 C 要改善) (1) 自主防災組織の充実

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	-	木花全地区の自治会長、防災隊長対象の会議を開催し防災組織の実態を把握した。	広報	事業の周知	A	-	会議の招集案内に調査の要望を入れた為、会議で現状報告に結びついた。
	住民の参加	B	-	各自治会長を介して展開している。今後の進捗度による。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	-	安心・安全のまちづくりへの礎になる。		住民の満足度			A
	各種団体との連携	B	-	木花地区自治会連合会とは連携。更に他の団体との連携の必要性を感じている。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 初めての事業展開であった為、各自治区の戸惑いは否めないが、継続開催する事と事例発表をさせる事で自主防災組織が充実できると思う。							

自己評価(評価:A 良い B 普通 C 要改善) (2) このはな防災塾

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	B	意見交換の場から地域への貢献を目指した具体的なプロジェクト実施体制に変革し、自治会・学校へ提案している。	広報	事業の周知	C	C	防災塾だよりが休刊中であるので再開をさせたい。
	住民の参加	A	B	防災訓練に対して、検討会の中で住民の参加を得ている。(今江、加江田)			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	B	部員との役割分担を円滑に行いながら、時として一体となった協力体制をとることが出来ている。		住民の満足度			B
	各種団体との連携	C	C	現状では、事業の展開を優先しているが、今後各種団体との連携を計画をしている。			事業継続の必要性		有・無

良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等> このはな防災塾は、原則的には防災士という特殊な資格者の集まりである。結成3年を経て組織を改善し地域ニーズを取り組める体制となったので、今後は今まで以上の具体的成果を上げられるものと考えている。
------------	--

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（3）少年防災マスター研修

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	3小学校高学年にDIG等で各自治区の環境の差から生じるニーズの差を学ばせている。	広報	事業の周知	B	B	小学校側が対象生徒の保護者に文書配布を行っている。
	住民の参加	B	B	小学生を対象にしている為、住民の直接参加は無いが家庭での防災意識向上に期待したい。		事業の効果	課題解決への作用	B	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域の将来の安全作りの為にも、将来の基盤となる小学生の研修の意義は大きく妥当と言える。	事業の効果		住民の満足度	B	B
	各種団体との連携	B	B	今後は、消防団・自主防災隊・自治会連合会との連携も必要である。		事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 今年度は、鹿児島県さつま町の鶴田ダムの見学を行った。ダムの構造・治水・放流・貯水・発電等を学びダムの必要性を体験でき、有意義であった。							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（4）避難誘導標識の設置

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	ニーズに沿って設置し41カ所となった。今後も把握しながら継続させたい。	広報	事業の周知	B	B	標識が目立つところに設置されまち推の名前が記載されているので事業の認識はされている。
	住民の参加	B	B	標識を活用して防災訓練をおこなっている。		事業の効果	課題解決への作用	A	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	防災、減災には、欠かせない標識であり維持管理を継続する。	事業の効果		住民の満足度	A	A

効果的・効果的な取り組み	各種団体との連携	B	B	自治会連合会、自主防災隊と連携し設置場所を決めている。	事業継続の必要性	有・無
	良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等> 既存の標識に『津波』標記を赤文字で表示した事で注視度がアップし効果があった。				

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（6）防災標語の募集

評価項目	評価		特記事項	評価項目	評価		特記事項
	本年度	前年度			本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A		広報	事業の周知	B	参加率90%を示したことは評価できる。地域への周知は一考に値する。
	住民の参加	A		事業の効果	課題解決への作用	B	試みとしては興味深い事業であった。マンネリ化しない処方も検討。他部会での取り組む価値を感じた。
効果的・効果的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A			住民の満足度	A	体育祭で展示・表彰式を行い住民への露出は成功した。
	各種団体との連携	B		事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等> 全作品を各学校に配布し好評であった。その反面地域住民への周知が限られた。イベントでの発表だけで終わったので広報誌に掲載してゆきたい。						
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）> ・木花地区全体の自主防災隊を組織して欲しい。			対応	<意見への対応> 自治会の環境は異なるので各自主防災隊は、木花地域の防災に対する共通認識を持ち、南海トラフ地震や異常気象現象に備えて研修の実施を行うよう指導したい。そして将来は木花地区全体の自主防災隊のネットワーク作りを目指したい。		
	<地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）> ・木花地域少年防災マスター養成に力を入れて欲しい。				<意見への対応> 平成26年から実施した少年防災マスターは、年2回の研修を行ってきた。研修内容も地域のニーズを捉えたまちづくりの方針を取り得れながら実施し継続している。		

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[ 福祉健康部会 ]

事業名	ふれあい祭り事業	実施年数	6年目												
事業期間	開始： 2014年度	終了： 継続予定													
地域魅力発信プランとの関連	<p>福祉をテーマに、笑顔で優しさあふれるまちづくりを掲げます。          子供を安心して育てられるまち・・・          若い世代が住み、子育てがしやすい環境は女性や高齢者にとっても優しいまちです。隣近所が仲良くし、地域みんなで子育てを助け合う人情味溢れる木花を目指します。          三世代にわたって住めるまち・・・          どの世代もそれぞれを思いやることのできる地域づくりをし、家族を大切にす木花を目指します。人テーマ          人材（財）がいきるまち・・・          得意分野を生かす、空いた時間を生かす、興味のある分野に取り組んでみる、など地域活動のスタイルは様々でO.K.です。それぞれの人材（財）がいきいきと活動する木花を目指します。          女性力を活かし輝くまち・・・          女性がさらにいきいきと活動し、より輝いていく木花を目指します。</p> <p>以上を意識し活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 まちづくり推進委員会5部会及び地域の各団体、組織と連携しながら地域住民のふれあいの場をつくる。</li> <li>2 木花地域まちづくり推進委員会各部会内容の提示などにより、活動状況や内容を理解してもらい、参加を促す場をつくる。</li> <li>3 地域住民の絆を築き、安心して住める明るく楽しい健康的なまちづくりを目指す。</li> </ol>														
事業内容・手段	<p>ふれあい祭り事業          (1)期日 令和元年5月19日(日)          (2)場所 木花小学校(体育館)          (3)内容          ア 地域包括支援センターのスタッフによる健康検査、医師による健康相談(血圧、脳内年齢、血管年齢等)の実施。          イ おもちゃ病院コーナーの設置          ウ 似顔絵コーナーの設置          エ 子ども広場コーナーの設置          オ 各部会の活動状況を掲示し、まちづくり推進委員会の広報を図る。          カ ステージイベントの企画          木花小・中学校の金管バンドや吹奏楽部による演奏          木花相撲踊り          宮大生によるアカペラ合唱、ジャズ演奏。</p>														
事業費	387,000円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>500人</td> <td>500人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>100人</td> <td>120人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>600人</td> <td>620人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和元年度	平成30年度	一般参加者	500人	500人	スタッフ	100人	120人	合 計	600人	620人
年 度	令和元年度	平成30年度													
一般参加者	500人	500人													
スタッフ	100人	120人													
合 計	600人	620人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・年々参加者も増え、内容も皆が楽しめ、地域の方のふれあいの場となっていると思います。</p>														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	B	事業実施時に、前年度参加者や各団体の関係者から意見を聞いて次年度の計画・実施をしている。	広報	事業の周知	B	B	事業資料の各戸案内をしている。広報誌により実施写真・説明を掲載し、報告している。
	住民の参加	B	B	雨のため木花小体育館中心の運営になったが、それでも館内は色々なイベントで盛況であった。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域住民の声、各団体からの要望を受け、取り組んでいる事業である。又、まちづくり部会の実施内容PRの場でもある。		住民の満足度			B
	各種団体との連携	A	A	小中学校、保育園・幼稚園、地域包括支援センター等と連携し、出演・スタッフとして参加してもらっている。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <p>おもちゃ病院を、体育館から教室に移動させ、静かな環境（症状の音を聞きながら修理するため）でおもちゃの修理をしてもらい、先生にも子ども達にも好評であった。木花女相撲踊りの着替え室も配慮したので好評であった。</p>							
地域協議会からの意見への対応		<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の独居者への声掛けをし、且つ参加して頂けるよう工夫して欲しい。</li> </ul> <p>&lt;意見への対応&gt;</p> <p>自治会、福祉施設、保育園・幼稚園、公民館等への広報をし、各戸に案内資料を配布し3世代家庭、高齢者等への参加案内をしている。</p>				対応	未・済		
		<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回数を増やす毎に盛り上がり、良くなっていると思いますが、更に各種団体と連携をとりながら進めたら一層よくなると思う。</li> </ul> <p>&lt;意見への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校、宮大、保育園・幼稚園、木花商工会、地域包括支援センター、児童センター、消防団等20団体と連携を取って実施した。今後も新規案件があれば取り組んでいきたい。</li> </ul>				対応	未・済		

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[ 福祉健康部会 ]

事業名	福祉まちづくり事業	実施年数	6年目												
事業期間	開始： 2014年度	終了：													
地域魅力発信プランとの関連	<p>福祉をテーマに、笑顔で優しさあふれるまちづくりを掲げて          子供を安心して育てられるまち・・・          若い世代が住み、子育てがしやすい環境は女性や高齢者にとっても優しいまちです。隣近所が仲良くし、地域みんなで子育てを助け合う人情味溢れる木花を目指します。          三世代にわたって住めるまち・・・          どの世代もそれぞれを思いやることのできる地域づくりをし、家族を大切にす木花を目指します。人テーマ          人材（財）がいきるまち・・・          得意分野を生かす、空いた時間を生かす、興味のある分野に取り組んでみる、など地域活動のスタイルは様々でO.K.です。それぞれの人材（財）がいきいきと活動する木花を目指します。          女性力を活かし輝くまち・・・          女性がさらにいきいきと活動し、より輝いていく木花を目指します。</p> <p>以上を意識し活動を行っています。</p>														
目的（期待される効果）	<p>1 すべての住民が、住み慣れた地域で共に支え合い健やかで安全に生活できる環境を作る。          2 映写会や講演会を通して、住民の健康に対する予防及び援助の知識を深める。          3 地域全体で認知症にやさしいまちづくりを目指す。</p>														
事業内容・手段	<p>1 映写会          (1) 期日 令和元年10月19日(土)          (2) 場所 木花公民館 研修室          (3) 内容 3世代で鑑賞できるような映画を上映した。</p> <p>2 認知症見守り声かけ模擬訓練          (1) 時期 令和元年11月23日(土)          (2) 場所 鏡洲公民館と周辺等          (3) 内容 認知症サポーター養成講座、見守り声かけ模擬訓練</p> <p>3 「いきいき健康セミナー」講演会          (1) 時期 令和2年2月15日(土曜日)          (2) 場所 木花公民館 研修室          (3) 内容 認知症や生活習慣病の予防、健康年齢について</p>														
事業費	148,000円														
対象者	木花地域住民														
参加者数（内訳）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>人</td> <td>157人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>人</td> <td>37人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>人</td> <td>194人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和元年度	平成30年度	一般参加者	人	157人	スタッフ	人	37人	合 計	人	194人
年 度	令和元年度	平成30年度													
一般参加者	人	157人													
スタッフ	人	37人													
合 計	人	194人													
住民の声（アンケートの結果等）	<p>参加者の満足度は総じて高いが、参加率の向上をどのように実現させるかを、事業展開の上では非常に重要と考えている。まずは、告知方法を検討の上、認知度向上を事務局を共同して実施し住民の声を受け止め、反応し展開に結び付けたいと思うます。</p>														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 1. 映写会

評価		評価
----	--	----



評価項目		本年度	前年度	特記事項	評価項目		本年度	前年度	特記事項
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	C	C	3世代で住めるまちづくりの為に、3世代で鑑賞可能な作品を提供した。	広報	事業の周知	C	C	ポスター提示、チラシの自治会回覧を実施。学校・PTAの巻き込みを検討したい。
	住民の参加	C	C	開催頻度を上げ認知されるようにして参加者を増やしたい			事業の効果	課題解決への作用	C
効果的・組率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	C	C	世代間を超えたイベントが少ない環境なので、存在自体が重要である。	事業の効果	住民の満足度			B
	各種団体との連携	C	C	現在まで、単独で開催していましたが、共催する効果を期待して、取り組みたい。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 本事業は、独自性がある。まちづくり推進委員会単独での開催に拘り過ぎた点で、ポスターの掲示場所を増やすこと程度に終始。今後は、周辺団体との共催を試みて本事業の認知度向上を目標							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 2. 認知症見守り声かけ模擬訓練

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	C	本年度は、鏡洲合同自治会の希望によって開催。希望を募って推進したい。	広報	事業の周知	B	C	担当自治会への全戸配布のチラシ、ポスター提示は実施しているが、認知度を更に上げ目的で、のぼりを1週間前位から掲げたり、拡声器を使用する必要性を感じている。
	住民の参加	C	C	当日は、社協主催の季節の味覚のお届け（約840食）と重なり参加者が少なくなった。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・組率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	訓練の適正規模から自治会単位で実施しているが、自治会全体を巻き込む予定で進捗して	事業の効果	住民の満足度			B
	各種団体との連携	A	A	市介護保険課、包括支援センター、介護施設と連携して実施している。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
		<地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）>							

地域協議会からの意見への対応	< 意見への対応 >	対応	未・済
	< 地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画） >		
	< 意見への対応 >	対応	未・済

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民 づくり 主体の まち	地域ニーズの把握				広報	事業の周知			
	住民の参加					事業の 効果	課題解決への作用		
効果的・ 組 み 率的な 取 組	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性						住民の満足度		
	各種団体との連携				事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		< 良かった点や改善した点等 >							

[ 産業活性化部会 ]

事業名	環境整備事業	実施年数	8年目									
事業期間	開始： 2012年度	終了： 継続予定										
地域魅力発信プランとの関連	<p>環境をテーマに自然環境を守るまちづくりを掲げて  四季折々の自然を楽しむまち・・・  雄大な太平洋に面し、山々は常に緑をたたえ、3つの川は水辺の生き物の宝庫です。この自然の宝物を大切に、そしてより輝かせていく木花を目指します。  環境美化をすすめるまち・・・  ゴミのないまちは、皆がルールを守っている証です。防犯、防災、減災にもつながる環境美化に取り組む木花を目指します。</p> <p>以上を意識し活動を行っています。</p>											
目的 (期待される効果)	木花地域の自然や施設の整備を行うとともに、木花地域の環境について多くの人に知ってもらうことを目的とする事業を計画し実施する。											
事業内容・手段	<p>1 里山環境整備事業  (1) 期間 平成31年4月～令和2年3月  (2) 場所 木花公園、好隣梅、等  (3) 内容 木花公園から権現山公園間の遊歩道の整備 好隣梅の調査、コスモスの種まき</p> <p>2 知福川への鮎の稚魚の放流  (1) 期日 令和元年5月下旬  (2) 場所 知福川  (3) 内容 知福川への鮎の稚魚放流</p>											
事業費	188,600円											
対象者	木花地域住民											
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>人</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>人</td> <td>34人</td> </tr> </tbody> </table>			年度	令和元年度	平成30年度	一般参加者	人	84人	スタッフ	人	34人
年度	令和元年度	平成30年度										
一般参加者	人	84人										
スタッフ	人	34人										
住民の声(アンケートの結果等)												

自己評価(評価：A 良い B 普通 C 要改善)

評価項目	評価		特記事項	評価項目	評価		特記事項
	本年度	前年度			本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握			広報	事業の周知		
	住民の参加			事業の	課題解決への作用		

効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性				効果	住民の満足度			
	各種団体との連携					事業継続の必要性		有 ・ 無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）2．知福川への鮎放流

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B		内水面組合の無い知福川なので環境保全の一環として行っている。	広報	事業の周知	B		参加対象者を加江田保育園に限定している。規模・予算見合いで検討の余地はある。
	住民の参加	B		近所の加江田保育園園児とその親を巻き込んで行っている。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B		地域の自然環境の保全の一環でその場所に来ていただき、維持の重要性を感じる機会を設けている。	事業の効果	住民の満足度			B
	各種団体との連携	A		加江田保育園や宮崎自然休養村のスタッフとの連携なくしてはできない。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt; 園児が親と一緒に、放流を楽しむとともに終了後に川遊びをする家族もいて、自然に触れる良い機会になっている。</p>							
地域協議会からの意見への対応		<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt; ・知福川への鮎の放流事業は例年継続しているため、アユの遡上の便りが何かで周知できると喜びが増すと思います。</p> <p>&lt;意見への対応&gt; ・まちづくりとして常時観察していないと言う事と内水面組合がない川なので乱獲の可能性を考え大きく周知はしていない。</p>					対応	未・済	
		<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt;</p> <p>&lt;意見への対応&gt;</p>					対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[ 産業活性化部会 ]

事業名	地域活性化事業	実施年数	7年目												
事業期間	開始： 2013年度	終了： 継続予定													
地域魅力発信プランとの関連	<p>環境をテーマに自然環境を守るまちづくりを掲げて  四季折々の自然を楽しむまち・・・  雄大な太平洋に面し、山々は常に緑をたたえ、3つの川は水辺の生き物の宝庫です。この自然の宝物を大切に、そしてより輝かせていく木花を目指します。</p> <p>地域資源を活かし、人が育ちつながるまち・・・  地元の農産品を活用して、地元自慢ができ、女性力を活かして輝くまちづくりを目指します。</p> <p>地域を巻き込むイベントを行い、交流を活発にさせるよう目指します。  以上を意識し活動を行っています。</p>														
目的 (期待される効果)	<p>木花の地域資源を活用して世代間、地域間の交流の機会を増やして、木花地域への興味及び関心を高め、地域の活性化を図る。</p>														
事業内容・手段	<p>1 加江田溪谷ウォーキング  (1) 時期 未定  (2) 場所 加江田溪谷その他  (3) 内容 木花記域内の散策</p> <p>2 農産物加工体験(トマト加工、フラワーアレンジメント教室)  (1) 時期 令和元年6月初旬、令和2年2月初旬  (2) 場所 清武農産物加工センター、木花公民館  (3) 内容 地域内の農産品を活用した加工体験</p> <p>3 地域活性化プロジェクト(えれこっチャド鏡洲、ウッドアート体験)(1) 期間 令和元年5月～12月  (2) 場所 木花地域  (3) 内容 地域内の活性化を図る為、関係団体と共同でイベントを開催する</p>														
事業費	246,000円														
対象者	宮崎市及び近隣市町住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>人</td> <td>172人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>人</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>人</td> <td>215人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和元年度	平成30年度	一般参加者	人	172人	スタッフ	人	43人	合 計	人	215人
年 度	令和元年度	平成30年度													
一般参加者	人	172人													
スタッフ	人	43人													
合 計	人	215人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・加江田溪谷ウォーキングは、安全を留意するために台風、天気の影響を多に受け当初の日程通りに進めないケースの影響で住民の注目度は低い。バス利用の制限も足かせになっている感は否めない。現地集合への変更希望も多い。</p>														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）1. 加江田溪谷ウォーキング

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	C	C	加江田溪谷に拘りすぎか？再検討に値する。	広報	事業の周知	B	B	自治会回覧を利用。
	住民の参加	C	C	参加者は微々たるもの。バス利用の制限がマイナス要因？	事業の効果	課題解決への作用	B	B	ウォーキングを通しての地域再発見事業としてのチューニングをする。
効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	地域資源の有効活用観点では妥当と言える。	事業の効果	住民の満足度	C	C	露出度が低い。8月10月開催日の再検討を行う。
	各種団体との連携	B	B	加江田溪谷の会にガイドの案内を依頼。偏り打開も必要か。	事業継続の必要性				○ 有 ・ 無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;                      参加者は楽しんでもらっているが、参加者を増やすために参加に至る方法を検討する必要がある。</p>							
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）>						対応	未・済	
	<意見への対応>								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）>						対応	未・済	
	<意見への対応>								

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[文化部会]

事業名	伝統文化継承事業	実施年数	11年目												
事業期間	開始： 2009年度	終了： 継続予定													
地域魅力発信プランとの関連	<p>文化をテーマに歴史を守り文化を育むまちづくりを掲げて 地域の伝統文化を守り育てるまち・・・ 木の花さくや姫など、木花に伝わる神話や伝説、童話を子供達へ伝えることは、郷土に誇りを持つことや、郷土愛を育むことに繋がります。地域、学校が連携して伝統文化の担い手を育てることで郷土の歴史や文化を支えていく木花を目指します。 木花の宝を発信するまち・・・ 木花には地域内外の人にまだ知られていない宝があります。それらの情報を様々な媒体で発信することは、宝の保全にも有効です。木花の宝を多くの人に知ってもらう活動に取り</p>														
目的 (期待される効果)	<p>木花の偉人、名所・史跡、文化財等に関する標柱・説明板の維持管理を行いながら地域の文化的遺産を次世代へ継承し、地域への愛着を高揚させ、外部の人々を呼び込む</p>														
事業内容・手段	<p>(1)案内板の設置・・・秋葉神社に案内板を設置する。 (2)名所・史跡の標柱・説明板の維持管理を行う。 (3)ふれあい祭りに積極的に参加し子供たちに「昔のあそび」の指導・体験を提供する</p>														
事業費	152,500円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>40人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>180人</td> <td>114人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>220人</td> <td>142人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和元年度	平成30年度	一般参加者	40人	28人	スタッフ	180人	114人	合 計	220人	142人
年 度	令和元年度	平成30年度													
一般参加者	40人	28人													
スタッフ	180人	114人													
合 計	220人	142人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>秋葉神社の案内板・・・以前より設置要望があったもので、今年度が木崎地区大火の150年にあたり、防災意識の高揚につながると好評。 昔の遊び・・・ふれあい祭り・木花小オープンスクールに加え、学園木花台小～も要請があり参加。大変感謝され感謝文、写真を送って頂いた。</p>														



自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	B	地域住民の意見を反映し防災意識を高める。	広報	事業の周知	B	B	広報誌の掲載。回覧版の運用。	
	住民の参加	A	B	案内板の完成祝いに自治会長、消防団、地域住民が多数参加し、地域住民の要望もあり適当である。		事業の効果	課題解決への作用	B	B	名所・史跡を住民に知ってもらう為に今後も設置した案内板設置の関心度は高い。
効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	自治会、消防団、地域住民と連携し	事業継続の必要性		有・無			
	各種団体との連携	A	B							
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・「標柱、説明板」の点検、清掃等管理の主担当者を決めて活動した。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）> ・文化財等の標柱、説明文の維持管理が主となるが責任を持って取り組んでほしい。 <意見への対応> ・標柱、説明文毎に担当者を配置して実施した。				対応	未・済 <input type="radio"/>			
		<地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）> ・ふれあい祭りの「昔の遊び」の指導は世代間の交流が図られて良い、継続して欲しい。 <意見への対応> ・「昔の遊び」に手作りの、弓矢を加え大変好評であった。今年度から木				対応	未・済 <input type="checkbox"/>			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

[文化部会]

事業名	伝統芸能継承事業	実施年数	5年目																										
事業期間	開始： 2015年度	終了： 継続予定																											
地域魅力発信プランとの関連	文化をテーマに歴史を守り文化を育むまちづくりを掲げて 地域の伝統文化を守り育てるまち・・・ 木の花さくや姫など、木花に伝わる神話や伝説、童話を子供達へ伝えることは、郷土に誇りを持つことや郷土愛を育むことに繋がります。地域、学校が連携して伝統文																												
目的 (期待される効果)	伝統芸能である「木花相撲踊り」・「熊野弓友会」及び「下原の雨太鼓」の保存及び後継者育成の取組推進																												
事業内容・手段	1 「木花相撲踊り」の伝承(披露)、後継者育成に取り組む。 (1)期間 令和元年5月～令和2年3月																												
事業費	150,000円																												
対象者	木花地域住民																												
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th colspan="2">令和元年度</th> <th colspan="2">平成30年度</th> </tr> <tr> <td></td> <th>相撲</th> <th>弓道</th> <th>相撲</th> <th>弓道</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>1500人</td> <td>160人</td> <td>1330人</td> <td>161人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>360人</td> <td>45人</td> <td>345人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1860人</td> <td>205人</td> <td>1675人</td> <td>194人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>				年 度	令和元年度		平成30年度			相撲	弓道	相撲	弓道	一般参加者	1500人	160人	1330人	161人	スタッフ	360人	45人	345人	33人	合 計	1860人	205人	1675人	194人
年 度	令和元年度		平成30年度																										
	相撲	弓道	相撲	弓道																									
一般参加者	1500人	160人	1330人	161人																									
スタッフ	360人	45人	345人	33人																									
合 計	1860人	205人	1675人	194人																									
住民の声(アンケートの結果等)	木花相撲踊りは、宮崎開催であった全国自治会長会で披露し好評であった。																												

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	B	相撲踊りは各種イベントに参加。他は不足。	広報	事業の周知	B	B	自治会のネットワークを利用し参加者募集を定期的に行っている。
	住民の参加	B	B	体育祭で相撲踊りを披露し小学生、地域住民も参加し、木花小学校を中心に後継者育成にも頑張っている。		課題解決への作用	B		熊野弓友会、下原の雨太鼓の後継者育成に工夫が必
効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	木花小学校を中心に後継者育成にも頑張っている。	事業の効果	住民の満足度	B	B	満足度は高いと思われるが、演者への参加度は低い。
	各種団体との連携	A	A	自治会、体育会、公民館等とイベント		事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木花相撲踊りは地域内外にも評価が高く、木花地区の知名度向上に貢献度は高い。</li> <li>熊野弓友会については、認知度が低いが「ふれあい祭り」等の昔の遊びを手作り</li> </ul>							
地域協議会からの意見への対応		<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt;</p> <p>『木花相撲踊り』については、様々なイベントに参加しているが、後継者を育ててほしい。</p> <p>&lt;意見への対応&gt;</p> <p>学校との折衝が必要だが、後継者の育成を含めて支援したい。</p>				対応	未・済		
		<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt;</p> <p>『熊野弓友会』は住民の興味があっても参加するきっかけがつかめない。積極的に広報が必要。下原の雨太鼓の継続をもう一度取り組んでほしい。</p> <p>&lt;意見への対応&gt;</p> <p>各自治会を通じて「募集広告」を回覧し、10数名の申し込みがあった。積極的に広報をしたい。</p>				対応	未・済		

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が「未」の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が「済」になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[文化部会]

事業名	木花地区ガイドマップツアー事業	実施年数	初年度												
事業期間	開始： 2019年度	継続予定													
地域魅力発信プランとの関連	文化をテーマに歴史を守り文化を育むまちづくりを掲げて地域の伝統文化を守り育てるまち・・・木の花さくや姫など、木花に伝わる神話や伝説、童話を子供達へ伝えることは、														
目的 (期待される効果)	昨年度に完成させた、木花の先人や名所・旧跡・伝統芸能等の説明・案内書「まち歩きガイド」を利便し、「史跡めぐりツアー」を企画して、広く木花の文化遺産を知っ														
事業内容・手段	「まち歩きガイド」の有効利用 コースの選定(3コース程度)、														
事業費	10,000円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<p style="text-align: center;">事業内容に応じて男女別や年代別データ</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td style="text-align: center;">0人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td style="text-align: center;">200人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td style="text-align: center;">200人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和元年度	平成30年度	一般参加者	0人		スタッフ	200人		合 計	200人	
年 度	令和元年度	平成30年度													
一般参加者	0人														
スタッフ	200人														
合 計	200人														
住民の声(アンケートの結果等)	前年度に作成した『まち歩きガイド』は、記載内容が好評で、これを基に史跡めぐりツアーを観光客が多かった。														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A		名所・旧跡をピックアップし探求の上、解説できるように努める。	広報	事業の周知	B		ガイドマップを5120部配布し要望は継続的に発生している。
	住民の参加	B		探求上、記録がなく口述伝承事業もある。必然的に聞き取り場参加を求めることが生じる。	事業の効果	課題解決への作用	A		部員が得意分野での解説委員に成長することが不可欠であり生きがいとなる。
率的・効果的な効果	地域まちづくり推進委員と各種団体との連携	A		地域の宝的な要素を充分活用している			住民の満足度	C	
		A		自治会・文化懇談会等との連携を	<b>事業継続の必要性</b>			有・無	
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <p>2年数カ月の日時がかかったが、地域住民を含め、他地区からの要望もあり好評であった。</p>							
地域協議会からの意見への対応		<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドマップにより、木花地域の史跡めぐりツアーの企画を期待しています。</li> </ul> <p>&lt;意見への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ガイドマップツアー」を計画。また、説明文の作成に取り組む。</li> </ul>			対応	未・済			
		<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2弾のガイドマップ作りに期待する。</li> <li>・掲載された物だけに固定しないで青年松などの木花の宝を幅広く対処してもらいたい。</li> </ul> <p>&lt;意見への対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当分は無理だが、将来的に考える必要はある。</li> </ul>			対応	未・済			

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、

[ 企画・広報部会 ]

事業名	広報事業	実施年数	5年目												
事業期間	開始： 2015年度	終了： 継続予定													
地域魅力発信プランとの関連	ひとをテーマに人が育ちつながるまちづくりを掲げて 人材（財）が活きるまち・・・ 得意分野を生かす、空いた時間を生かす、興味のある分野に取り組んでみる、など地域活動のスタイルは様々でOKです。それぞれの人材（財）がい														
目的 (期待される効果)	1 まちづくり推進委員会各部の活動のほか、地域協議会や各種団体、学校などの行事や活動、各種イベントなどをまとめた広報誌の発行。														
事業内容・手段	1 広報誌の発行 (1) 期日 令和元年8月、令和2年2月下旬 (2) 内容 ・年間を通して開催される各種行事、イベントを調査しその活動内容や活動実績をまとめた広報誌の発行														
事業費	360,000円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和元年度	平成30年度	一般参加者	人		スタッフ	人		合 計	人	
年 度	令和元年度	平成30年度													
一般参加者	人														
スタッフ	人														
合 計	人														
住民の声（アンケートの結果等）	広報誌このはなを、木花地区社協と協賛し共同版としていることで対象者が増えてこと														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善） 1.広報誌の発行

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	B	各部会への聞き取りを先行させてから掲載させている参加を促すよう募集事項を含んで進めている。	広報	事業の周知	B	B	年2回の発行が適当か？検討を進めたい。
	住民の参加	B	B			事業の効果	課題解決への作用	B	B
率的・的・な効	地域まちづくり推進委員	A	A	活動の目的、部会員のやる気、住民の協賛だが、増やす			住民の満足度	C	C
	各種団体との連携	B	B			事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> 各部会の活動をできるだけ目的を示してから内容を伝える努力を行い理解度向上に貢献できた。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）> 小化地域まちづくり推進委員会の知名度を更に上げる為、目録や並びに各種団体とも連携しながら広報活動を広めていく必要が感じられ <意見への対応>				対応	未・済		
		<地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）>  <意見への対応>				対応	未・済		

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は「継続して記載し」、「対応」の欄が『済』になった場合は

[ 企画・広報部会 ]

事業名	木花まちづくり体育祭事業	実施年数	11年目												
事業期間	開始： 2009年度	終了： 継続予定													
地域魅力発信プランとの関連	学びをテーマに生涯にわたって学ぶまちづくりを掲げて スポーツに親しむまち・・・ スポーツに親しみ、健康、体力づくりをしていく元気な木花を目指します。														
目的 (期待される効果)	まちづくり体育祭を通して木花地域住民の交流と親睦を図ると共に相互理解と協力・ 協調の意識を育て、明るく活力のある地域づくりに寄与する。														
事業内容・手段	(1) 時期 10月27日(日)開催 (2) 場所 学園木花台小学校 (3) 内容 ア 木花地域まちづくり推進委員会の共催事業として、まち づくり推進委員会各部会員、自治会選出の委員、木花地 区推進委員会各部会員、自治会選出の委員、木花地														
事業費	(実績/予算) 695,204円/776,740円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>1,100人</td> <td>1,000人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>200人</td> <td>200人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,300人</td> <td>1,200人</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和元年度	平成30年度	一般参加者	1,100人	1,000人	スタッフ	200人	200人	合 計	1,300人	1,200人
年 度	令和元年度	平成30年度													
一般参加者	1,100人	1,000人													
スタッフ	200人	200人													
合 計	1,300人	1,200人													
住民の声(アンケートの結果等)	学園台より参加の住人より、会場が近くなった為参加しやすくなった。実際参加人数も増えた。お天気にも恵まれ楽しい1日となった。多くの世代が楽しめるよう、プログラムを再度考えなおしてほしい。														



自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	B	B	各地の地域代表（団長）より、各地域の意見を反映した。	広報	事業の周知	A	B	ポスター提示（35 69枚）、自治会にチラシ配布。
	住民の参加	B	C	開場設置を業者委託に変更し住民が参加しやすくなった。		事業の効果	課題解決への作用	B	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域全体を巻き込む事業として運営している点。	事業の効果		住民の満足度	B	B
	各種団体との連携	A	A	J A, 体育会、自治会連合会をはじめ		<b>事業継続の必要性</b>		・ 無	
良かった点・改善点等	<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <p>競技参加条件の緩和を行い、参加者が不足する団の解消を図った。要介添え者などの参加、応援が出来るようにした。</p>								
地域協議会からの意見への対応	<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt;</p> <p>地域によって参加者の多少があり、自治会での啓発が重要であると思う</p> <p>&lt;意見への対応&gt;</p> <p>26自治会を6団に集約していて、実行委員会が団中心で運営されている。団から自治会への周知をしていただくよう努力したい</p>						対応	未・済	
	<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt;</p> <p>体育大会は地区住民にとって最も身近な事業であり、1人でも多くの参加ができるよう期待します。</p> <p>&lt;意見への対応&gt;</p> <p>高齢者の範囲を70歳以上から60歳以上と緩和して参加対象範</p>						対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は

[事務局]

事業名	地域まちづくり支援事業	実施年数	3年目												
事業期間	開始： 2017年度	終了： 継続予定													
地域魅力発信プランとの関連	ひとをテーマに人が育ちつながるまちづくりを掲げて 人材(財)が活きるまち・・・ 得意分野を生かす、空いた時間を生かす、興味のある分野に取り組んでみるなど地域活動のスタイルは様々でOKです。それぞれの人材														
目的 (期待される効果)	まちづくり推進委員会、全ての部会及び事務局運営の効率化を推進するとともに、ま														
事業内容・手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) まちづくり推進委員会各部会の円滑な運営を行うための支援</li> <li>(2) まちづくり推進委員会の運営に必要な物品に確保と充実化</li> <li>(3) 青色防犯パトロール隊に関する支援</li> <li>(4) まちづくり専用車に積極的活用</li> </ul>														
事業費	881,748円														
対象者	木花地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和元年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和元年度	平成30年度	一般参加者	人		スタッフ	人		合 計	人	
年 度	令和元年度	平成30年度													
一般参加者	人														
スタッフ	人														
合 計	人														
住民の声(アンケートの結果等)	現状は、実施していない。														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（1）事務局の運営に関して

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民の主体的取り組み	地域ニーズの把握	B	B	自治会関係者とまちづくりの部会に積極的に関わり問題把握に努めた	広報	事業の周知	B	B	各部会の事業をチラシ・回覧・ポスター掲示で周知し住民へ参加を促した。
	住民の参加	B	C	どの事業も初めて参加する方が増えた		事業の効果	課題解決への作用	A	B
効果的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	部会の連携を図る上で要となる。			住民の満足度	C	C
	各種団体との連携	A	B	木花自治会連合会、社協に役員として参	<b>事業継続の必要性</b>				<u>有</u> ・無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <p>事業広報活動として、自治会回覧・部会の事業案内の配布を速やかにいき、ポスター掲示を各団体へ働きかけ、要所に行った。体育祭のケースでは、35カ所から69カ所に増やすことができた。周知・告知などは検討の余地多くあるので更に検討したい。</p>							

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）（2）青色パトロールの運営に関して

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民の主体的取り組み	地域ニーズの把握	A	A	各種団体からの声	広報	事業の周知	B	B	青色パトロール隊
	住民の参加	B	B	定期的な募集を行		効果	課題解決への作用	A	B
効果的な率	地域まちづくり推進委員の取組	A	A	安全・安心して住			住民の満足度	A	B
	各種団体との連携	A	B	青色パトロールの利	<b>事業継続の必要性</b>				<u>有</u> ・無
良かった点・改善点等		<p>&lt;良かった点や改善した点等&gt;</p> <p>地区青少協・社協・自治会連合会・民生委員・児童委員共同で『子ども見守り活動』の募集</p>							

地域協議会からの意見への対応	<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt;  活動内容の周知を自治会など活用し知らせてゆく必要を感じる。</p> <p>&lt;意見への対応&gt;  広報誌にふれあい祭り、体育祭の開催内容を載せ各戸配付すること</p>	対応	未・済
	<p>&lt;地域協議会からの意見（平成31年4月・事業計画）&gt;  イベントへの独居住民、子育て世代の人の参加など、イベントの場合</p> <p>&lt;意見への対応&gt;  社協、包括支援センターなどとの共催は、検討したいと思いま</p>	対応	未・済

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は

(様式第6号)

令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	安全推進事業
-----	--------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	462,000	
2	繰越金	330,000	
3	負担金		
4	合計(A)	792,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	87,992	消耗品費 82,290円 ・DIG用地図代 16,500 ・プレート看板代 5,500 ・まなBOSAI ロープワーク材料代 6,310 ・このはな防災塾研修(文具、教材費) 4,800 ・防災標語(文具、教材費) 40,380 ・標高表示プレート移設代 8,800 食糧費 5,702円 ・このはな防災塾研修(非常食の調理材料代) 5,702
5	役務費	480	・傷害保険 (このはな防災塾研修) 240 (木花中防災研修) 240
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	529,820	・防災倉庫、テント 340,840 ・AED関連資機材 188,980
11	積立金		
12	合計(B)	618,292	

収支差額(A) - (B)	173,708
---------------	---------

令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	防災資機材購入積立事業
-----	-------------

(1) 収入の部 (単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金		
2	繰越金	500,000	
3	負担金		
4	合計(A)	500,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費		
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金	500,000	500,000
12	合計(B)	500,000	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	福祉まちづくり事業
-----	-----------

(1) 収入の部 (単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	68,000	
2	繰越金	20,000	
3	負担金	0	
4	合計(A)	88,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費	3,000	講師謝礼金 3,000
3	旅費		
4	需用費	18,798	食糧費 18,798円 ・いきいき健康セミナー時お茶菓子代 6,215 ・認知症見守り模擬訓練お茶菓子代 9,162 ・健康維持活動時お茶菓子代 3,421
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	21,798	

収支差額(A) - (B)	66,202
---------------	--------

令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	環境整備事業
-----	--------

(1) 収入の部 (単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	286,000	
2	繰越金	0	
3	負担金	0	
4	合計(A)	286,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	159,713	消耗品費 135,709円 ・コスモス種子 52,800 ・鮎稚魚 66,000 ・作業用具 16,909 食糧費 24,004円 ・里山整備時のお茶・弁当 19,961 ・コスモス時のお茶 4,043
5	役務費	618	保険料 618
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	160,331	

収支差額(A) - (B)	125,669
---------------	---------



令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	地域活性化事業
-----	---------

(1) 収入の部 (単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	225,000	
2	繰越金		
3	負担金	49,000	トマト加工体験教室参加料1,000円×39名 フラワーアレンジメント教室参加料1,000円×10名
4	合計(A)	274,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費	12,000	謝礼 ・加江田溪谷散策講師 12,000
3	旅費		
4	需用費	160,456	消耗品費 156,937円 ・トマト加工材料 68,270 ・フラワーアレンジメント材料 30,000 ・地域活性化イベント用品 44,180 ・ウッドアート材料 14,086 ・加江田溪谷ウォーキング 杖立て材料代 401 食糧費 3,519円 ・加江田溪谷散策時お茶代 2,021 ・加江田溪谷散策時スタッフ弁当代 1,498
5	役務費	240	保険料 240
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	4,060	・トマト加工会場使用料 4,060
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	176,756	

収支差額(A) - (B)	97,244
---------------	--------

令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	伝統文化継承事業
-----	----------

(1) 収入の部 (単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	40,000	
2	繰越金	0	
3	負担金	0	
4	合計(A)	40,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	35,730	消耗品費 35,730円 ・刈払機混合油 2,730 ・史跡元伊勢立看板修理費用 33,000
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	35,730	

収支差額(A) - (B)	4,270
---------------	-------

令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	伝統芸能伝承事業
-----	----------

(1) 収入の部 (単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	32,000	
2	繰越金	50,000	
3	負担金	0	
4	合計(A)	82,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	50,000	消耗品費 50,000円 ・木花相撲踊り活動用品(撥、駒、糸) 50,000
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	50,000	

収支差額(A) - (B)	32,000
---------------	--------

令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	木花地区ガイドマップツアー事業
-----	-----------------

(1) 収入の部 (単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	70,000	
2	繰越金		
3	負担金	0	
4	合計(A)	70,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	9,304	消耗品費 9,304円 ・ファイル代 9,304
5	役務費	480	保険料 480
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	9,784	

収支差額(A) - (B)	60,216
---------------	--------

令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	広報事業
-----	------

(1) 収入の部 (単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	184,817	
2	繰越金	355,183	
3	負担金	0	
4	合計(A)	540,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	282,600	印刷費 282,600円 ・まちづくり広報誌(年2回発行) 252,900 ・LINEチラシ印刷費 29,700
5	役務費	48,583	タイムライン使用料 48,583
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	24,000	掲示板使用料
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	355,183	

収支差額(A) - (B)	184,817
---------------	---------

令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	木花地区まちづくり体育祭事業
-----	----------------

(1) 収入の部 (単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	846,000	
2	繰越金	0	
3	負担金	0	
4	合計(A)	846,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	4,043	食糧費 4,043円 ・実行委員会 お茶代 4,043
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	4,043	

収支差額(A) - (B)	841,957
---------------	---------

令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	このはな春祭り事業
-----	-----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	514,000	
2	繰越金	0	
3	負担金		
4	合計(A)	514,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	2,916	食糧費 2,916円 ・実行委員会お茶代 2,916
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	2,916	

収支差額(A) - (B)	511,084
---------------	---------

令和4年度 事業別収支計算書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	地域まちづくり支援事業
-----	-------------

(1) 収入の部 (単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	204,183	
2	繰越金	702,024	
3	負担金		
4	自己資金	28	
5	合計(A)	906,235	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金		
2	報償費		
3	旅費	21,000	活動経費 ・3,000円×7人 21,000
4	需用費	243,802	燃料費 73,000円 ・まちづくり車燃料代 73,000 消耗品費 124,512円 ・コピー用紙、インク他 124,512 食糧費 46,290円 ・部会用お茶代 46,290
5	役務費	17,502	・クリーニング費 6,502 (まちづくりベスト、毛布) ・青色防犯パトロール隊傷害保険 11,000
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	399,797	・まちづくり車リース料 393,760 ・複写機使用料 6,037
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	96,580	事務局パソコン購入費 96,580
11	積立金		
12	合計(B)	778,681	

収支差額(A) - (B)	127,554
---------------	---------



(様式第7号)

積立金管理状況報告書

木花地域自治区  
木花地域まちづくり推進委員会

事業名	防災資機材購入積立事業
-----	-------------

積立金の収支

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	前年度までの積立額	0	
2	積立額	500,000	
3	取崩額	0	
4	合計(A)	500,000	

(様式第9号)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書

令和5年5月22日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市大字熊野 591
名 称	木花地域まちづくり推進委員会
代表者の氏名	奥 正幸
電話番号	0985-58-0044

令和5年3月13日付宮地第372号2で交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金につきましては、決算において、2,224,721円の残金があり、繰越金として次年度の会計へ繰り越します。

添付書類

令和4年度収支決算書

令和4年度 木花地域まちづくり推進委員会への意見書 [ 事業実施報告 ]

令和5年4月20日  
木花地域自治区地域協議会  
会長 大神博

令和4年度の木花地域自治区の地域まちづくり事業実施報告及び収支決算について、事業計画及び収支予算に沿って適正に執行されていまして、承認いたします。

1. 総括

執行率55%ということから、コロナ禍の大変な状況の中で活動をされたことと思われます。しかし活動内容の通り、タイミングを見ながらできる限りの活動をされてきたことに対しては評価します。

2. 事業の推進体制

特にありません

3. 各事業への意見

部会名	意見
安全推進部会	・意見なし
福祉・健康部会	・意見なし
産業活性化部会	・意見なし
文化部会	・意見なし
企画・広報部会	・意見なし
事務局	・意見なし

4. その他

--